

Yamaha News

ヤマハニュース 1993 No.36
SEPTEMBER

COLOR TOPICS ◆ Y.E.S.S.スタッフの祭典

'93 Y.E.S.S.アースリーラン

◆ 83鈴鹿8時間耐久ロードレース

ヤマハ3チームの8時間

No.1を奪せ ◆ スラリ130本ノ

トロフィー展示数日本一

西湘バイパス・第三京浜ウォッチング'93

素顔にズームイン!!

ドキュメント!これがライダーの実態だPART②

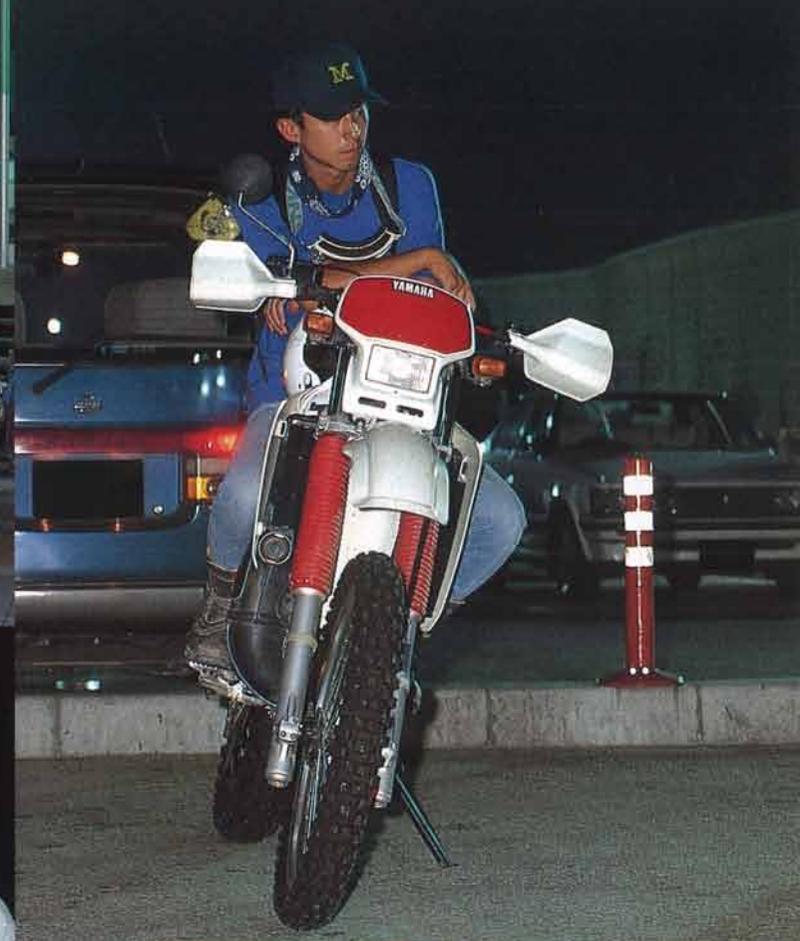
②



9月号

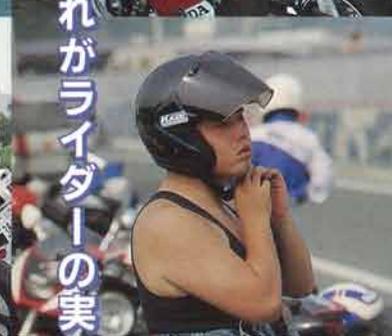
ブズ'93

第三京浜



素顔にズームイン!!

特集 ● ドキュメント / これがライダーの実態だ PART ②





クワダ



92年8月号に続いて、「いま」を走るライダーたちのバイクライフ、
本首に迫ったス・ヘンシャルレポート第2弾！
前回のデータと比較しながら、ともすれば見失ないがちになる彼らの実像をつかみなおす、
その手がかりを探してみた。

ドキュメント① バイクライフ

西湘バイパス編



湘南の海に面し、東京から箱根、伊豆方面へ出かける代表ルートとなっている西湘バイパス。特に、広い駐車場と海を見おろすレストスペースが設けられた下り線の国府津パーキングエリアは、絶好のツーリング中継点として数多くのライダーが立ち寄るポイントである。

すでに夏休み期間中で、しかも梅雨明け後すぐの週末とあって、ツーリング中のライダーは早々に通過した後なのか、取材を行なったお昼頃は、割合いのんびりくつろぐ姿が多くみられた。

「久しぶりに晴れたから、フラッと走りに来たんです。このあと箱根を回って帰るつもり」(鹿内誠さん/24歳/会社員)

「仕事が忙しくて月1回くらいしか乗れないからね、たまに休みの日が晴れるとこのへんを走ったりする。ロングツーリングも好きだよ。でも、予め計画して休みを取って、お金も用意しとかなきゃいけないから、年に1〜2回かな」(寺内健一さん/26歳/会社員)

「本当はテント持ってキャンプなんかに行きたい。そのためにTDM850買っ

たりしたんだけど、思うように時間が取れなくて……」(高木昭彦さん/26歳/会社員)といった声がほとんど。

なかには、バイク歴1年足らずで、「とりあえずちよこちよこ近場を走って(田中裕之さん/25歳/会社員)とか「や」とひとり走れるようになった。ここは前から来たいと思ってたので彼に連れてきてもらった」(青木きよみさん

23歳/O.L)などの理由もあるが、総じて、ヒマとお金の都合で遠出しそびれたらしい社会人が9割を占めた。

数少ない学生のうち、仙台の大学に通う一ノ瀬隆さん(20歳)は、「月平均で1500〜2000kmくらい走ります。週末よくこうして横浜までツーリングがてら帰ってくるんです」と話す。いずれにせよバイクの主な用途は、

圧倒的にツーリング。次いで、3人に1人の割合いで通勤、通学と続く。

しかし、何が何でもツーリング命、みたいなトンがったこだわりはなく、「楽しく乗ればいい」という、ニュートラルな考え方が多い。

「林道とかキャンプもやってみたいのはヤマヤマ。だけど、実際、お金とヒマがなきゃね」(鹿内さん)などのように、夢

ムリせず自由気ままに 楽しく走れりやイイよ

お金もヒマも
ガンバリも
みんな
限り
ある
資源
です



Go!



や希望はいろいろあるが、現実的にやれる範囲でムリなく楽しむ、ガツガツしないゆとりが感じられる。

そこには、バイクの魅力をすべてクルマと比較して考え、

「暑いとか寒いとか、あるいは雨に降られたりするのはあたりまえ。それがバイクなんだから。ツライこともあるけどね、そんな時にも気持ちイイ瞬間ってあるでしょ。例えば雨もグシヨグシヨに濡れてしまえば逆に快感だったり……」(神瀬隆さん/27歳/会社員)

「四季の匂い、雨の匂い、山や海の匂い。いろんな匂いが、走ることに少しずつ変わっていくのを感じられる、自然との一体感というか解放感というか、それがいいんだよね(Aさん/29歳/イラストレーター)」

「止まればコケるし、人間もケガをするけど、それだけにうまく乗りこなしてい

る時は人車一体の、操ってるっていう快感がある。走り込めば走っただけの疲労感も、スポーツのあとの疲れと同じ心地よさがあるね(小野沢司さん/24歳/会社員)など、クルマにないバイクそのものの個性を楽しみたいという、根本的な欲求がみえてくる。

また、バイク人口が減り、クルマが単なる移動手段でなくファッション、レジャーツールとして若者にもはやされる今、再びそれに背を向けてバイクで自分を表現したいという意志も伝わってきた。

「昔、おとながカッコよく乗っているのを見て自分もそんなふうになりたいと思った」と話すリターンライダーや、「外観のカラーリングとか自分のファッションなんかで個性を出せる」という人たち。

1970年代、まだバイクが自由と自己主張で乗るものだった時代に、また近づきつつあるのだろうか。

現代のライダー像

実態調査データ

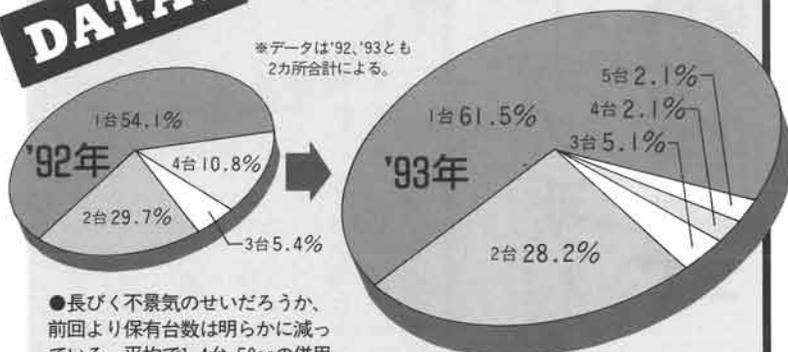
ライダーたちの「いま」を探ろうと、ヤマハニュースでは昨年引き続き独自の実態調査を行なった。場所は、比較のため前回と同じ、首都圏から伊豆・箱根方面へのツーリング中継点となる「西湘バイパス・国府津パーキングエリア」と、週末の夜に東京、神奈川周辺からさまざまなライダーがやってくる名所「第三京浜・保土ヶ谷パーキングエリア」。

調査日/7月31日
場所/西湘バイパス(11:00~15:30)
第三京浜(18:30~23:00)
対象/無作為に選んだライダー
男女比:男94.9%(94.5%)
平均年齢:25.6歳(25.3歳)
平均バイク歴:6.8年(7.5年)
※()内は'92年のデータ

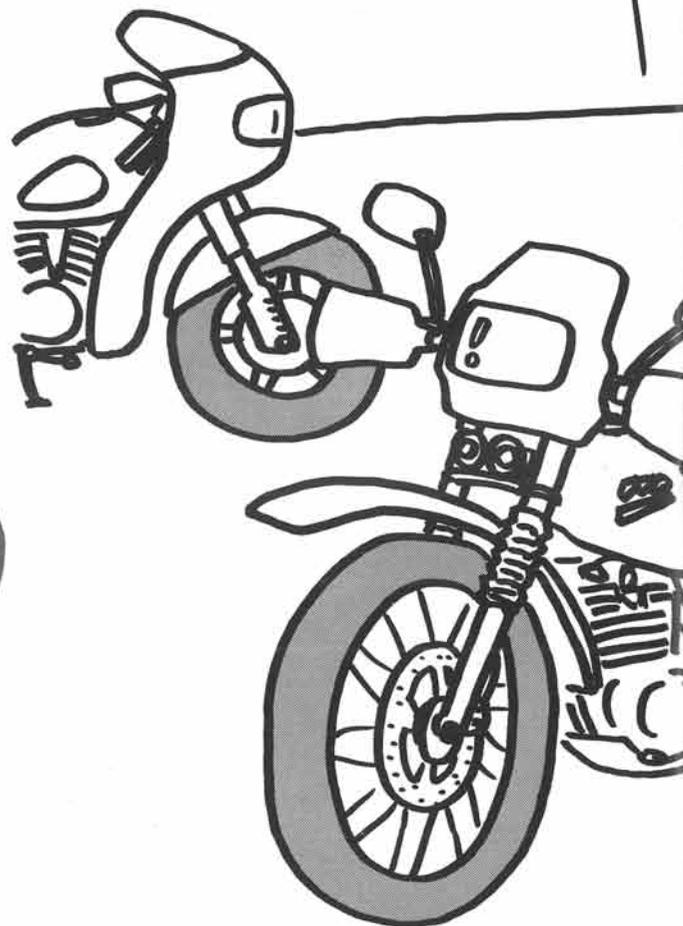
DATA1

バイクの保有台数

※データは'92、'93とも2カ所合計による。



●長びく不景気のせいだろうか、前回より保有台数は明らかに減っている。平均で1.4台。50ccの併用は、複数所有者の約半数。オンとオフ、あるいはリッターオーバーと250ccのような形で、実用性より趣味性で使い分ける人が目立つ。



ドキュメント① バイクライフ

第三京浜編



健全な明るいバイクライフの象徴が西湘バイクパスだとすれば、いかにも便派な不良っぽいアブナげな匂いのするライダーたちの溜まり場が第三京浜、保土ヶ谷パーキングエリアだ。

同じく東京から小田原、湘南方面へ向かう中継点のひとつで、新装されたレストハウスが目引くほか、ふだんはごくありふれたPAに過ぎない。

しかし、週末の夜だけは違う。8時、9時頃からレストハウスの前にどこからともなく続々とバイクが集まり始め、0時を過ぎるといつの間にか数百のライダー、バイクで埋め尽くされる。水銀灯とヘッドライト、レストハウス

の明かりにぼんやり照らし出されたバイクの群れ。そして歩道に座り込んで雑談を交わすライダーたちの姿は、やはり異様な雰囲気漂わせる。状況を知らない者は、暴走族の集会かと勘違いするが、少なくとも立ち寄るのをためらうに違いない。

ところが実際は、ぶつそうな暴力沙汰もなければ本物の暴走族もない。あまりお行儀こそよくないが、誰もが和気あいあいと雑談に耽り、あるいはじつと行き来するバイクの姿に見入っている。

彼らの目的は、多くがカスタムバイクの見物か情報交換だ。バイク雑誌のページを飾りそうな、アチコチに手が入ら

れたビッグバイクを囲んで、どこそこパーツを組んだらパワーがどうしたこうした、などとマニアックな話を目まぐるかせる。

話の中心にいるのは、ほとんどが30代後半から40代のベテランライダーだ。VMAXやFJ1200、ハーレー、はやりのカワサキ系などのリッターオーバーマシンを持ち、また100万円はラクに超えようかという改造を施して自慢するには、やはりそれなりの経済的なゆとりがなければムリなのだ。

それでも、若いライダーたちのXJRやRZ、R1、ゼファー、CB1S、Fなどはマフラーやオイルクーラー、バ

ックステップ、メッシュブレーキホースといった「定番」カスタムが加えられ、それぞれに会話のタネになっている。

「カッコだけの改造はしない。性能アップのためのカスタムがポリシー」と話すライダーは多いが、

「自慢はフロントブレイキ。ローターが左右違うでしょ？ こんなことしてるのはオレくらいだろ。もうじきエンジンにも手を加えるつもり。何がいいのかわかって？ まあ、自己満足だね」(保科好平さん/22歳/会社員) という、あたりが本音のようだ。

「西湘」にもこうしたカスタム好きはい

バイクは自己満足の世界 でも仲間が欲しいんだ

俺が女だったら
絶対ジュリアナ
お立ち台ギヤル
や、てるぜ



的の同好会的ノリが特徴だ。

では、彼らにとってバイクの魅力とはやはり「カッコよさ」「スピード」に行き着くのかというと、そうでもない。主な使用用途に90%の人が街乗りをあげている一方で、ツーリングと答えた人も50%を超えている(複数回答)。

もっとも、よく話を聞いてみると、みんながみんなカスタムファンばかりではなく、かなりトンガツた「カスタム同好会」ライダーと、なんだかいっぱい集まっているから楽しそつだと見物にきた「ヤジウマ」型の2タイプに分けられる。

後者のなかには、外車好き、ツーリング大好き、ただのヒマツブシなどいろいろな人たちが入り混じり、ここ2年間で4万km以上を走破した鶴見裕子さんは、「社会人デビューなんですけど、完全に



そーいっ
方だった
んですけど

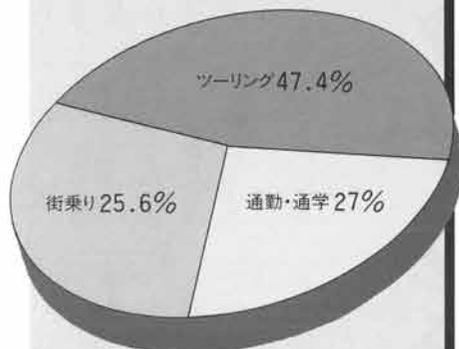
バイクにのめり込んじゃった。今、90ccのビジネスバイクで通勤、ドウカテイでツーリング、みたいに使分けてます。費用？ うーん、トータルで300万くらい使ってるのかな。月2回は1泊がけてツーリングするし、年に2回くらい8日とか9日かけて九州や北海道まで行くでしょう。そのたびにドカを点検に出すから、1カ月の出費も10万円くらいかかってしまいます。おかげで貯金なんか全然ないの」と話す。

『三京』に集うライダーは、特別な趣味志向を持つ人たちではない。ただ、週末の深夜を仲間とバイクで過ごし、ひと月に平均1500kmもバイクを走らせる彼らのエネルギーは、西湘で感じたよりもずっとダイレクトで強烈だった。



DATA2

バイクの最も多い用途



※データは2カ所合計による。

●昨年もツーリングが83%と最も多かったが今年は大きく減少。その分、通勤・通学は8.2%から27%と増加しているのが目立つ。結局、遠出する人が少なくなり、日常の足として、あるいは近所をプラリと走る、省エネライダーに変身しつつあるようだ。しかし、1カ月の走行距離は平均1150kmで昨年と大差ない。

ドキュメント② ショップへの声

西湘バイパス編



ライダーにとってバイクショップはどんな存在であるべきか、何が望まれているのか。その答えは時代によって刻々変わるものだし、それぞれのお店が置かれた環境などによっても異なる難しい問題である。

これまで、ヤマハニュースではさまざまなお店とお客さまの良い関係をピックアップし紹介することで、そのヒントを提供してきたが、今回は敢えて方法を変え、ライダーからの不満、要望を並べた形で本音を探ってみた。

昨年、8月号で今回のようなドキュメントを行なった時、「西湘」と「三京」の区別は別として、バイクショップに対するライダーからの要望は、「サービス技術を高めてほしい」が最も多かった。「アルバイトみたいなの(若い、あるいは頼りなさそうな)人に自分のバイクをイジられると不安でしかたない」などの不満がそ

の理由である。

これについては、今回「西湘」で集めた意見でも同様だった。

「修理に出したらまだ調子が悪く、自分でエンジンを開けたところ、パーツが逆に組まれていた。信じられないミス!」(小林力男さん/35歳/会社員)とはあまりにおソマツな話だが、では信頼でき

る店の条件、見分け方は? というところ

「メーカーのライセンスとか、認定工場の表示」(小林さん)

「工場の床がピカピカだったりするとヒマそうな店に見えて不安。工具が乱雑に置かれているのもちよつと……」(青木きよみさん/23歳/O.L.)

「修理車がバラバラ並べてあるのは自分

のバイクもそういう扱いをされそう。でも、工場が全然見えなかったり1台の修理車も入ってなかったりする」と逆に心配

また、「工賃の額が高すぎる」店によって同じことを頼むのに額の差が大きい」という声もたびたび聞かれた。工賃が高いか安いかはともかく、店によって差が大きいのはライダーの不信感を買って

自分たちのモノサシを押しつけないで!



るようだ。

さて、もうひとつ、サービス以外に不満の声が集まっていたのは、接客態度について。

「一見のお客ってイヤがるのかしら。お店の人が不愛想だったり、常連の人たちがジロってにらむの。すぐ出ちゃった。」

それと、女のコとか初心者をおバカにしないで、会社帰りにスーツ、ハイヒールで行ったら、ホントにバイク買うの？って変な顔されたし、初歩的なことを聞くと、知ってるでしょそのくらい？ みたいに笑われたことがあるの（青木さん）

「バイクって個性の強い乗り物だから店の雰囲気も特殊だよ。店の人の態度とかガサツな気がする。クルマのディーラーみたいなカタさは必要ないけど、ハキハキしたことは使いたかあいさつ、清潔な服装は見習ってほしいな（田中裕之さん/25歳/会社員）」

「もう友だちみたいな店だから良し悪しあるけど、なあなあ態度が時々鼻につくんだよ。やるべきことはちゃんとしてほしい（大野栄さん/24歳/会社員）」

そのほか、用品やパーツの在庫を多くしてほしい、工具も販売してほしい、という要望も聞かれた。

こうしたことがショップから足を遠ざけているのか、

「用品ショップやカスタムパーツを扱うショップにはよく行くけど、バイク屋さんって純正パーツを頼みにいく程度」と答える人が多く、自分をバイクショップの常連客だと意識しているのは3割弱。

「バイクや用品を選ぶのは大型店。品ぞろえが多いし比較できるからね。でも、

いえ……
また
来ます……



そういうところはデパートやスーパーみたいな感じでアフターサービスの点でまいち不安だから、ほしいのが決まったらいつものバイク屋さんに頼んで買う」なんていうちゃっかり派もいる。

しかし、「時々行くバイク屋さんのツーリングクラブに誘われて、参加しようかなって思ってる」「何だかんだ言ってもお店の人やほかのお客さんと仲よくなっちゃえばその店がいいよね」などの意見からすると、工夫しだいでまだまだ固定客として取り込める余地はありそうだ。

DATA 3

バイクにかかる費用 (月平均)

※データは'92、'93とも2カ所合計による



●最高額は40万円。バイクに乗り始めて1カ月の女性で、バイクを現金購入したため。実最高額はこれも女性だが、月10万円。ほとんどがツーリング費と点検、メンテナンス代。ボリュームゾーンは1～3万円くらい。

ドキュメント② ショップへの声

第三京浜編



どちらかといえばあまり仲間やショップと好んで交流はせず、必要に応じて自分の要件を満たせばいいという個人主義的な印象が強かった。『西湘』に比べると、『三京』は夜の寂しさ、人恋しさで仲間を求めて集まってくるライダーが多いように感じた。

そんな違いからだろうか、ここでの取材はすごく好意的に受け入れてもらえたし、バイクショップへのコメントも予想以上にいろんな意見を聞くことができた。まず、特定のバイクショップと付き合いがあるか、という問いかけに対しては、

「B割がYES。NOと答えた人の理由は、「車検以外ならひとりでもやれる」そして、「カスタムしてるバイクじゃ面倒見れないって言われた。でも、エンジンの中身いじったりマフラー切ったり、そんなムチャな改造じゃないし、ドレスアップ程度のはカタイこと言わず認めてくれる方がいいの……」(浜口大輔さん/22歳/会社員)という意見もあった。

だが、ショップとの付き合い方については、『西湘』よりも積極的だ。「月1回か2回だけど、用事がなくなつてプラッと寄るよ。お客さんとは友達だしツーリングとかイベントにも行ってるしね」(村上睦さん/22歳/会社員など、あちこちの店頭で出会うタイプのライダー)と変わりない人が多い。むしろ、日頃のツーリングや街乗りの時、ひとりで走るタイプの人ほど、仲間意識が旺盛なよ

うだ。

もちろん、サービス面での来店率も高く、その分、技術力や工賃のバラツキに対するクレームといった点では、『西湘』の場合と同じ、あるいはもっとキツイ口調で話していた。

ところが、特別不満はないという人が半分近くいて、望むとすればもう少し……というレベルでの要望がいくつか出た。「女のコがないのが残念。お客さんでもお店のコでもいいから、もう少しいるとツーリングなんか楽しいのに」(村上さん)

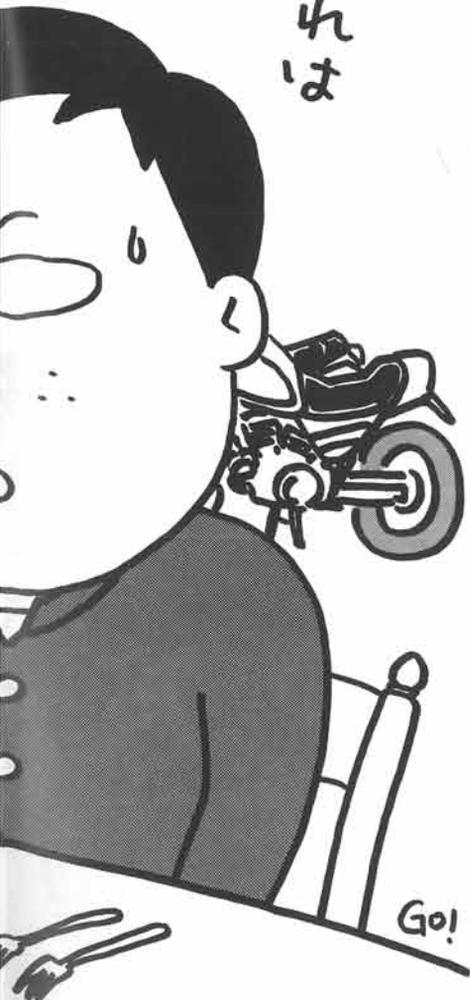
「メカ講習会とかツーリングとか、もっといろいろ楽しみを提案してくれるといい。たまにDMが来たりするとうれしい」(菅沼俊之さん/24歳/会社員)

「ただ走るだけになりがちなツーリングや、いつも同じようなゲームばかりのイベントはちょっと退屈。もうひと工夫ほしい」(斉藤博史さん/27歳/会社員)

女のコの件などはけっこう甘えた話かもしれないが、アフターサービスの重要な点はしっかりチェックしている。さらに、「自分たちもそうだったけど、高校生はバイクに乗っちゃだめなんて抑えたら逆効果なんだ。ウラでこっそり乗るから危なくて……。ちゃんと教えて乗せてあげればいいのにな。お店でそういうことしてほしいな。いまだってオレ、練習の場があれば行きたいもん。ウマク

遊びだけじゃなく 安全もちゃんと教えてよ

「こ、これは



当店特製の

オードブル
です



なりたいたからね(浜口さん)

「技術サービスと安全運転、マナーの指導は店の義務だと思っ。グローブは着けない、ヘルメットのアゴヒモは締めない、そんなライダーが増えた。ライダー自身の問題かも知れないけど、最低限自分の身を守る方法くらいは教えないと、売り放しと同じだよ(中川賢治さん/29歳/フリーター)など、教人が同じように話していた。

このあたりは「西湘」での取材からは

拾えなかったことだ。

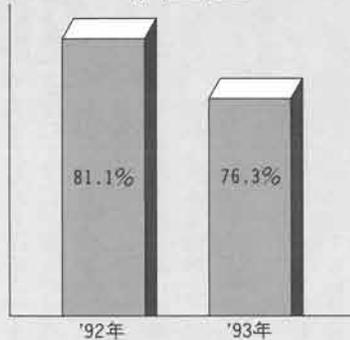
ただし、「三京」「西湘」に集まるライダーは、たまたまそこに居あわせたただけのどこにでもいるタイプである。単に集まった場所の環境によって色分けを試みたにすぎない。実際、店頭にはもつという異なるタイプの人がやってくる。

問題は、その時お店がどう対応してあげたいのか。彼らが望んでいるものを探し出す手がかりとして、このレポートを役立ててほしい。

DATA4

決まったバイクショップがあるか?

YES

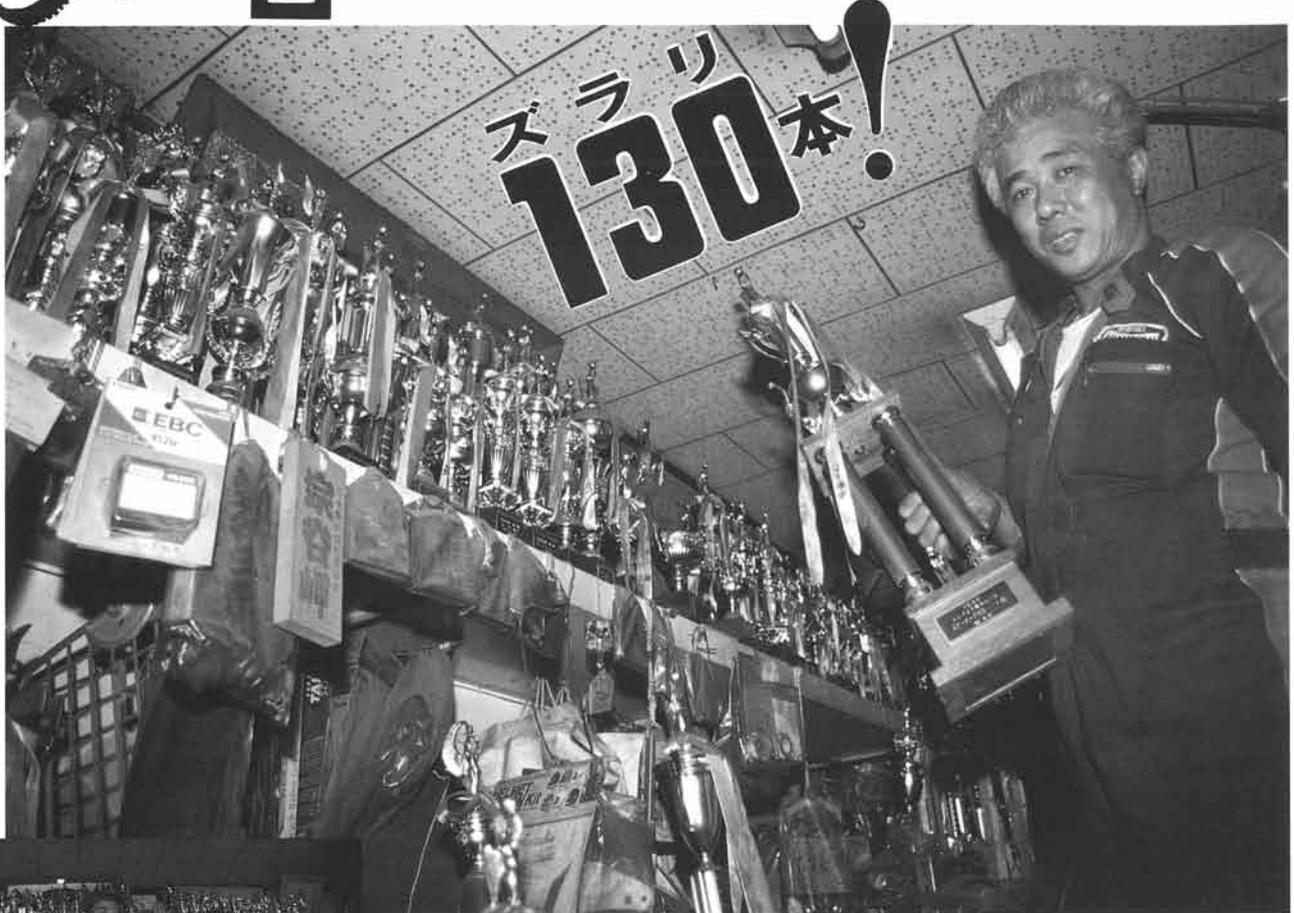


※データは'92、'93とも2カ所合計による

●パーツを頼む程度、という人をYESから外したため、昨年よりやや減少した数字だが、実質的にはほとんど変わらない。NOと答えた人の大半は、メンテナンスくらい自分でやれるというのが理由。行きつけの店がツブレた人も2名あり。

No.1を探せ

三芳店根本モータース(根本良昭社長/埼玉県入間郡)



チームはメンバーによる自主運営方式。レースが減ったとはいえ、
今でも遠くは日光、那須まで出かけ、月2回ほど参戦。入賞率もきわめて高い

トロフィー展示数日本一

小

ちんまりしたお店の入口を入るといきなり、正面にドーンと並んだトロフィーが目に入る。お世辞にも整理されたとはいえない(コメント)

ナサイノ、どちらかといえば雑然と物に埋め尽くされた店内で、唯一整然と誇らしげに飾られたコーナーだ。しかし、それも大きな棚の上で二重三重に重なり、なおかつ収まりきれずにあふれている。担当セールスの前川社員の話では、

「130本までは数えたんですがね、何しろ物が多すぎて奥底に埋もれちゃってる分はわかりません」。各チーム員が自宅に持ち帰っている分まで合わせると、3倍くらいはありそうだという。

これらはすべて、根本MRCというミニバイクレースチームが稼いできた戦利品。

「7、8年前かなあ、今チームリーダーやってる宮本クンってお客さんが2、3人でスクーターレースを始めてからだよ。最初はポチポチだったけど、そのうちYSR50とか出てきて、YESSでも盛んにレースをやったでしょ。86、87年あたりかなあ、FISCOでサマーフェステバルやってさ、ミニバイクの耐久レースがあった頃、一番トロフィーの数も増えたんだよね」と根本社長。

お客さまが一所懸命やってるなら、その分店もバックアップしてあげたいとチーム体制をつくり、トランプ、工具、メンテナンス場所などさまざまな形で応援し続けた成果だ。

自宅でジャマになつたら捨てずに店に持っておいでと言っただけで、この日も1本増えた。それを大事そうに棚に置いて、

「店がツブれずにある限り、ずっと残すつもりだよ。チーム員みんなの記念だし、これからの励みになっただけだね」

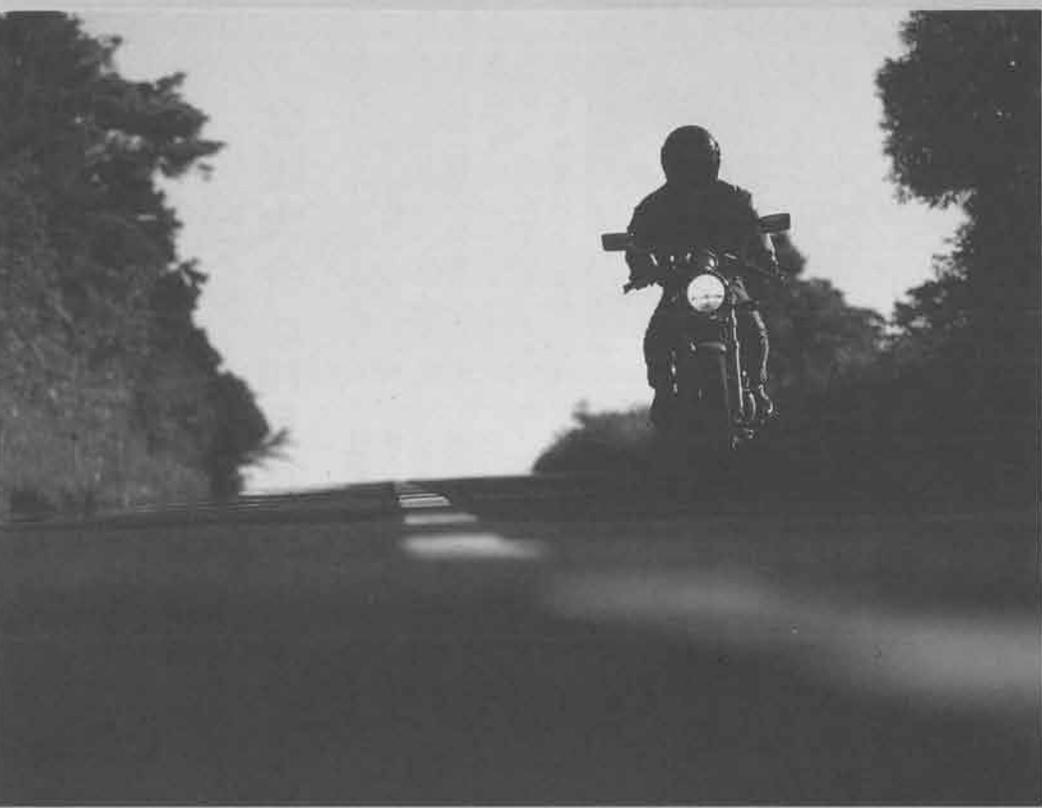
それにしても、ミニバイクレースではかなり知られた「MRC」。これ以上トロフィーが増えたら置き場所をどうするのだろうか。

「なあと、ガラクタをカタしゃいいだけよ!」

日本最南端・最北端にある店、奥さま自慢No.1、イベントの豊富さ日本一、などなど、「この点にかけてはウチこそNo.1だ!」

というお店を募集しています。アピールポイントと店名、住所、電話番号を明記し、下記までご郵送ください。

宛て先: ヤマハ発動機株/広報室宣伝課「ヤマハニュース」No.1を探せ係 〒438 静岡県磐田市新貝2500



免許取得者が増える秋 初心運転者制度のアドバイスで 交通事故防止を!

およそ夏らしくない日が続きましたが、それでももう夏休みは終わり。いよいよ秋の需要期に備えて、またご商売が忙しくなる頃ですね。

しかし、こういう拡販時期こそ気を付

けたいのは交通事故。免許取りたて、バイク買いたての不慣れが、お客さまの思わぬアクシデントを誘発します。

特に、夏休みを利用して免許を取ったり、アルバイトしてバイクを買ったばか

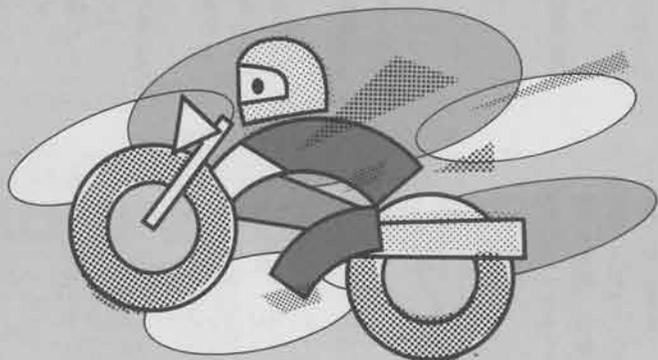
SAFETY

ご応募ありがとうございます!

第6回 Y.E.S.S. 二輪車

ナイスライド
まんがコンテスト

1298通



今年5月1日からスタートした「第6回Y.E.S.S.二輪車ナイスライドまんがコンテスト」の募集は、7月31日で締め切らせていただきました。

作品の募集総数はおよそ1298通。いずれ劣らぬ力作ばかり寄せられ、セーフティライディングや楽しいバイクライフへの熱い想い、真剣な気持ちがヒシヒシと伝わってきます。ありがとうございました!

応募作品のすべては、厳正な審査のうえ各部門別にグランプリ、準グランプリ、優秀賞の計18作品を選出。9月下旬をメドに、ヤマハニュースやWAY、専門誌広告、店頭ポスターなどで発表いたします(入賞者には別途通知します)。

りという高校生、大学生は要注意。ついうれしさのあまり勢い込んで無理したり、ちよつと慣れてきたところで調子に乗ってムチャをするケースは、よく目にし話に聞くところです。

くれぐれも慎重な運転に心がけ、安全で楽しいバイクライフを続けられるようアドバイスください。

こうしたビギナーへの心配は、すでに過去の事故データから関係各方面で取りざたされており、行政的な規制も実施されています。

心運転者講習を受けなければならないなどの項目から成り、経験の浅い運転者に慎重な運転を促そうというものです。

すでに、'90年9月から実施されており、ライダーを含めみなさんご存じのこととは思いますが、納車時や店頭での会話の時、重ねて注意を喚起するようお願いいたします。

また、レジャーシーズンに合わせて恒例の「秋の全国交通安全運動」も、9月21日から30日まで実施され、交通違反への監視の目がいっそう強化する時期。

大事な体、免許証に傷をつけないよう、ビギナーだけでなくすべてのお客さまにひとことアピールしておきましょう。

技術サービスを切磋琢磨する '93スタートーナメント 全国大会は10月28日開催!

販売店のみなさんにとって、点検、メンテナンスといった技術サービスは、商品のうえで大きな柱のひとつであり、お客さまとお店の信頼関係を築くために不可欠な要素です。

それだけに、より高い技術力、より優れたサービス体制を備えることは、お店

の個性、魅力づくりにつながる強力な武器となります。

そこでヤマハでは、こうしたサービスの強化をはかろうとするお店のために、サービスマンのレベルに応じた基礎力を養成する「YTSヤマハ二輪車整備士講習会」を開催。さらに、1年に1回、お互いのサービス力を競い合い高め合っ

ていただく研修の場として、「スタートーナメント」を開催しています。

ぜひ積極的にご参加ください。

■'93年ヤマハスタートーナメント

出場資格/ヤマハスタートーナメント、ヤマハ整備士資格(ペイシック、マスター、ドクター)を取得されたサービスマン

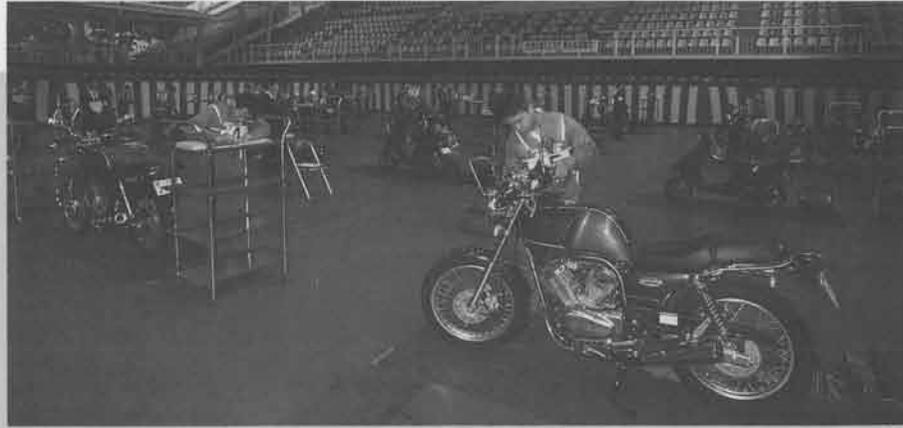
※各店より1名に限りま

地区大会/各ブロックによって異なります。

詳しくはヤマハ営業所へお問い合わせください

全国大会/10月28日(つま恋(静岡県))

各ブロックより選抜された代表者でペイシック10名、マスター20名が参加



昨年は、全国1500店が参加。そのうち、全国大会では藤木勝彦さん(YSP千葉北)がマスタークラス、岩崎正幸さん(YOU SHOP 風俱樂部)がペイシッククラスの優勝を勝ちとった

ライダー思いのうれしい宿 YES.S.S. 特選宿泊施設に 妙高高原『コート・ドール』追加

Y.E.S.S.

今年ツーリングシーズン前に、ライダーが本当に喜ぶ旅先の宿はどこか、を徹底的にチェックして選び抜いた「YES.S.S. 特選宿泊施設」。

すでに多くのYES.S.S.スタッフに利用いただき、心づくしのもてなしや便利な設備、リーズナブルな特別料金(通常の20~30%オフ)など、さまざまな面で大変な好評を得ています。

夏休みは終わってしまいましたが、さわやかな風が心地よい秋はまさにこれからが本番。全国に広がる特選の宿を利用して、お客さまと一緒に楽しい旅をお過ごしください。

そんななか、この夏、ツーリングのメッカ信州には新しく46番目の宿「プチリ

ゾート コート・ドール」(妙高高原)も加わりました。

付近に、赤倉温泉をはじめ数々の名湯地や黒姫山、野尻湖などツーリングスポットが豊富にあり、冬は大小のスキー場も散在。一年を通じて利用したい宿です。

自慢は本格派欧風家庭料理から鍋ものまで幅広い料理レパートリー。今年中はオープン記念グッズのプレゼントもあります。

■プチリゾート コート・ドール 場所/新潟県中頸郡妙高高原町赤倉サンモリッツ

☎0255-8713788

料金/YES.S.S.スタッフの場合2名以上の利用で1名分8500円、5050円。



3名以上・70000~56000円
※年末年始、お盆など、時期により異なります。一般の方は別料金設定となります。

■YTSヤマハ二輪車整備士講習会

販社	北海道	ヤマハ東	ヤマハ北	ヤマハ東	ヤマハ中	ヤマハ西	ヤマハ中	ヤマハ四	ヤマハ九
月	ヤマハ			B	B	2M	2M		2M
9				4M	2M	7-9	16-18		8-10
月				7-9	1-3		広島		
				2M			2M		
				20-22			20-22		
							岡山		

B/ペイシック 2M/2サイクルマスター 4M/4サイクルマスター D/ドクター ※都合により、開催変更および中止となる場合があります。また、ペイシックは拠点開催ですので、日程のないものは、各営業所へお問合せください。

モータースポーツ大好きなら たまにはカートはいかが？ FK-9を体験ください

今年も、観戦チケットが50倍以上の競争率にハネ上がったF1日本グランプリ。ひと頃の異常な人気はまだまだ根強いようです。

そんななかで、F1そっくりのドライビング感覚を手軽に楽しめることから、多くのモータースポーツファンの注目を集めているのが、ヤマハスポーツカート『FK-9』。

セルスターター始動、アクセルとブレーキ、ステアリングだけのカンタン操作、スポーティな大型カウル付きボディなど



も魅力で、ヤマハが主宰するFK-9専用クラブ『ワイズカフェ』はメンバーズレースやタイムトライアル競争、レーシングスクール、各種ミーティングなど豊富なイベントを開催しています。

お客さまと一緒に入会し、お店の新しい遊びのメニューとしてFK-9を加えてみてはいかがでしょうか。

とりあえずFK-9を体験してみたいという方は、全国20カ所以上のワイズカ

SUGO

食欲、スポーツの秋は 『SUGOでまとめて楽しむ！』 『TBC』&『いも煮会』

長かったレースシーズンがいよいよ秋ライマックスに近づく秋。ツーリングを兼ねてサーキットへレース観戦、なんて話もいろいろ聞こえてきます。

スポーツランドSUGOでは、この秋も定番となった国際イベント『ラッキーストライク杯TBCビッグロードレース』を開催。世界グランプリや全日本選手権を沸かせたスター選手たちの、シーズン最後を締めくくる激戦にこ期待ください。

また、それに合わせて秋の味覚をたっぷり楽しめる『いも煮会パック』をスタートさせます。レース観戦の行き帰りに、

フェ提携コースでレンタル走行が楽しめるほか、レーシングスクールやミーティングイベントへの参加も大歓迎です。コースの場所やイベント日程、料金、ワイズカフェ入会方法など、詳しくはハガキで『ワイズカフェ事務処理センター』（〒437-11 静岡県浅羽郵便局私書箱6号）あて資料を請求ください。

■主なワイズカフェ提携コース

〔関東〕フォーミュラランド・ラー飯能
埼玉県飯能市赤沢字久通谷

☎0429-77-3066

〔中部〕瑞浪レイクウェイ

岐阜県瑞浪市釜戸町足股10664

☎052-805-6773

〔関西〕スリップストリームinOSAKA

大阪府泉南市北野221-1

☎0724-80-2211

あったかい盛りだくさんのお鍋をつつきながら、みんなでレース談義に花を咲かせるのもSUGOならではの楽しみ方。

ぜひお客さまとお誘い合わせてご来場ください。宿泊や新幹線チケット等のご相談にも応じます。詳しくは、SUGO 仙台営業（☎0244-83-4711）または東京営業（☎03-3575-4771）までおたずねください。

■TBCビッグロードレース
日程／10月9日・10日

チケット／〔当日〕おとな5000円

こども1100円

〔前売〕おとな4200円



ペア8000円

■いも煮会パック

期間／9月1日～11月23日

料金／おとな、中学生2500円

小学生以下2000円

※内容は、いも煮材料、食器類、栗ごはんおにぎり、お新香、炊事用具、薪、入園料が含まれています。また、土、日、祝日以外ではフィールドアスレチックを無料でご利用いただけます。

予約／4名以上で7日前まで





9月のヤマハ提供番組ガイド

■'93世界グランプリロードレース
W・レイニーのV4、原田哲也GPフル参戦、F・スペンサーの復活など、今年もヤマハチームは話題、見どころがいっぱい。その熱戦の模様を、専門家の的確な解説を混じえながら全戦にわたって中継します。お楽しみに！
TXN系全国ネット・毎週日曜日24時30分〜25時25分 静岡のみ月曜日24時55分〜25時50分 放映。

■驚き・ももの木・20世紀

20世紀の、誰もが知っている歴史、事象、人物などの意外な事実や秘話、エピソードを、ドキュメンタリーのVTRでご紹介いたします。

案内役はマルチタレントの三宅裕司と大桃美代子。近未来的なスタジオに、森毅氏（京都大学名誉教授）ほか多彩なゲストを招き、試写会のような形で進行します。知的興味をそそる物語の数々に、ぜひご期待ください。

放映・テレビ朝日系19局ネット、毎週金曜日21時〜21時54分。
■ヤマハONANDOFF
陸と海、2つの大きなフィールドを舞台に展開するすばらしいヤマハワールドの数かずをご紹介する番組です。

巧みなカメラワークを駆使した美しい映像と選抜されたBGMで、話題性に富んだテーマをスポーツツマインドたっぷりにお届けします。

▼9月4日（ハイク編）

「弟子屈のバイク牧場」

▼9月11日（マリネ編）

「小浜島を愛するダイバー」

▼9月18日（ハイク編）

「遠藤ケイさん原風景を走る」

▼9月25日（マリネ編）

「オホーツクのヨット共同オーナー」

※一部内容が変更となる場合があります。

※一部地域では放送日が異なります。

テレビ北海道、テレビ東京、テレビ大阪、テレビ愛知、テレビせとうち、ティー・エックス・エヌ九州/毎週土曜日18時30分から18時45分、静岡放送/毎週日曜日10時45分から11時、東北放送/毎週木曜日24時40分から24時55分、テレビ新広島/

毎週木曜日24時40分から24時55分。

■オリジナルコンサート

私たちの創った世界

世界各国で精力的に活動が続いている「ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教室」。そこで育った世界の子どもたちによる自作自演のコンサート模様をお届けします。日曜の朝のすがすがしく彩る純粋な音楽の響きをやっくりとお楽しみください。

テレビ朝日系全国ネット・放送日/毎週日曜日、放送時間/7時30分から8時。

■ぼっぶん王国（ラジオ）
ミュージックスタジアム

10代の音楽フリークを対象としたアマチュアリズムたっぷりのラジオ番組です。月曜から木曜まで、曜日ごとに切り口を変えた楽しい企画で、アマチュアバンドを応援します。

ニッポン放送他16局ネット。

'93 YAMAHA NOVELTY

愛煙具にもヤマハスピリット

嫌煙家が増え、とかく愛煙家には肩身の狭い現代。そのぶん、ひとときの休息を楽しむ一服が、どんなに心をくつろがせることか。YAMAHAライターで、至福の一服をプレゼントしてください。



●防風防水ライター・オレンジ (NO.374011/¥4000)

アウトドアフィールドでおなじみのタフなライター。雨、風に強く、確実な着火性と頑丈な作りが自慢です。色は目につきやすいエマーゼンシー・オレンジ。

●YAMAHAバイクライター (NO.374028/¥3500)

定番・赤/白ストロボラインのYZR仕様。テールランプを押すと、タンクキャップから着火します。(でもガソリンは使用不可。念のため)。デスクトップのオブジェにもイイですね。

●BICライター・プレーン&マリネ (NO.374055&41/¥120)

楕円形ボディのBIC。あちこちで見かけるポピュラーなライターだけに、デザインコレクターもいるとか。ヤマハオリジナルはこの2つです。

XJR400二輪専門誌広告

NCL501

XJR
YAMAHA FOUR-STROKE AIR-COOLED INLINE-FOUR

こいつは、ロックかブルースか。
XJR400

¥379,000

見る・見られる・いい運転。 Be Riding Friends!
バイクでひろがるいい仲間

YAMAHA

TT250R二輪専門誌広告

YAMAHA

TTならいける。TTならできる

PURE OPEN ENDURO
TT250R

¥269,000

見る・見られる・いい運転。 Be Riding Friends!
バイクでひろがるいい仲間

ON/OFF バイクとマリンスポーツの総合情報TV番組

YAMAHA

秋のツーリングシーズンを前に、さらなるイメージの醸成を求めて掲載される「XJR400」と「TT250R」の二輪専門誌広告、展開編の第3弾です。

XJR400は写真、キャッチコピーとともに洗目のトーンで迫り、より強烈な男の世界を、TT250Rは岩場の走りを背景に軽快なハンドリングの解説を——。どちらも際だつ魅力を存分に表現しました。

シーズン最後の追い込み時期も目前、どうぞ店頭からも両モデルの積極的なご支援、よろしくお願いたします。

Windy, Trendy

ヤマハスクーターヘルメット

¥13,800

AMOS アモス

規格：JIS-B種 サイズ：M、L カラー：ホワイト、キャンディレッド、メタリックブラック、キャンディパープル、ガンメタ 素材：ABS樹脂

斬新なデザインの中に、快適機能を満載したスポーツスクーターにジャストフィットする新ヘルメットです。帽体の前後に設けられたエアインテーク、エアダクトはヘルメット内の熱気を効率的に排除し、しかも迫力デザインのポイントに。またラチェット式ポリカーボネイト製ライトスモークシールドは有害な紫外線から肌や目を守る“UVカット”加工が施されています。さらに快適な被り心地のメッシュ&トリコット内装は、頬パッドに着脱できる“ウォッシュパッド”を採用。今までのスクーターヘルメットにない高級機能とともに豊富なカラーバリエーションも用意して、お客さまのニーズに応えます。どうぞ、本体とセットでおすすめてください。



キャンディパープル



ホワイト



キャンディレッド



メタリックブラック



ガンメタ

ヤマハライディングギア

'93~'94 F&Wのデリバリー開始!

フール ウィンター



RY303スーパーウォームブルゾン ¥21,000

チタン系化合物のラミネート加工を施した着脱式チタンベスト(別売)により、寒風を完全シャットアウト。体温を逃がさず高い保温効果を発揮します。
※別売：AY219チタンベスト¥7,800

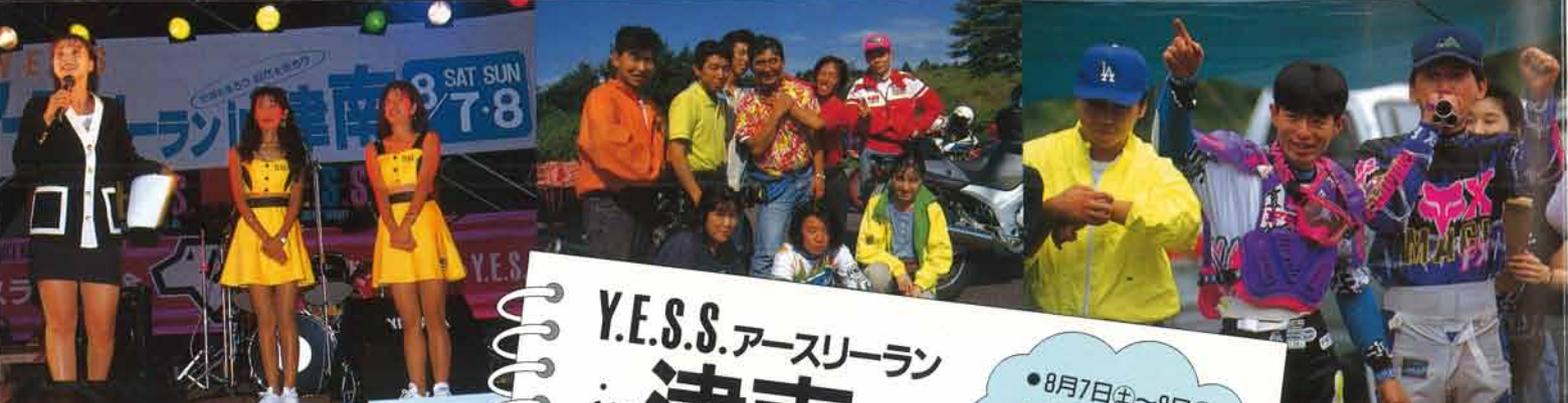
春の内覧会にてご予約いただきました、'93~'94年秋・冬のライディングコレクションのデリバリーが開始されました。どの商品も冬の走行を快適に演出する機能を満載、ヤマハならではの自信作です。お客さまへのご案内とともに、積極的なご拡販をよろしくお願いいたします。



TY126チームヤマハレプリカF/Wブルゾン ¥25,000

ヤマハレーシングチームのスタッフブルゾンの機能とデザインをそのまま商品化したステータスモデルです。着脱式チタンベスト(別売)により高い保温効果も確保しました。

※この頁に掲載されている価格は、すべてメーカー希望小売価格です。価格には消費税は含まれていません。



Y.E.S.S.アースリーラン in 津南

- 8月7日(土)~8日(日)
- グリーンピア津南
(新潟県中魚沼郡)
- 参加者700名

関東会場は豊かな自然を利用したグリーンピア津南。道中のワインディングには、Y.E.S.S.ステーションも待機してドリンクサービスやXJR400の試乗車を用意し、ツーリングをバックアップ。津南に集合した700人のY.E.S.S.スタッフは、日没と同時に大パーティへ突入、バーベキュー、ロックコンサート、ゲーム大会と夏の夜を満喫しました。他にも、会場を使ったレクリエーションなどが行なわれ、ながら自然学校といった感のアースリーランでした。

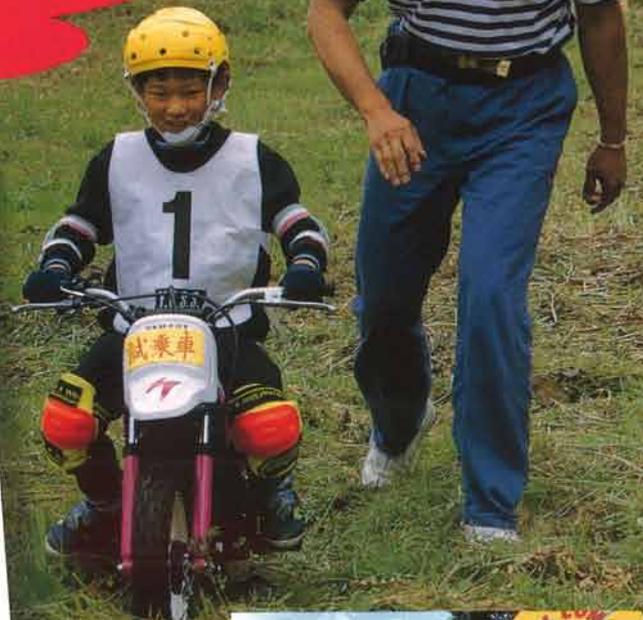
アースリーラン 真に出逢った日

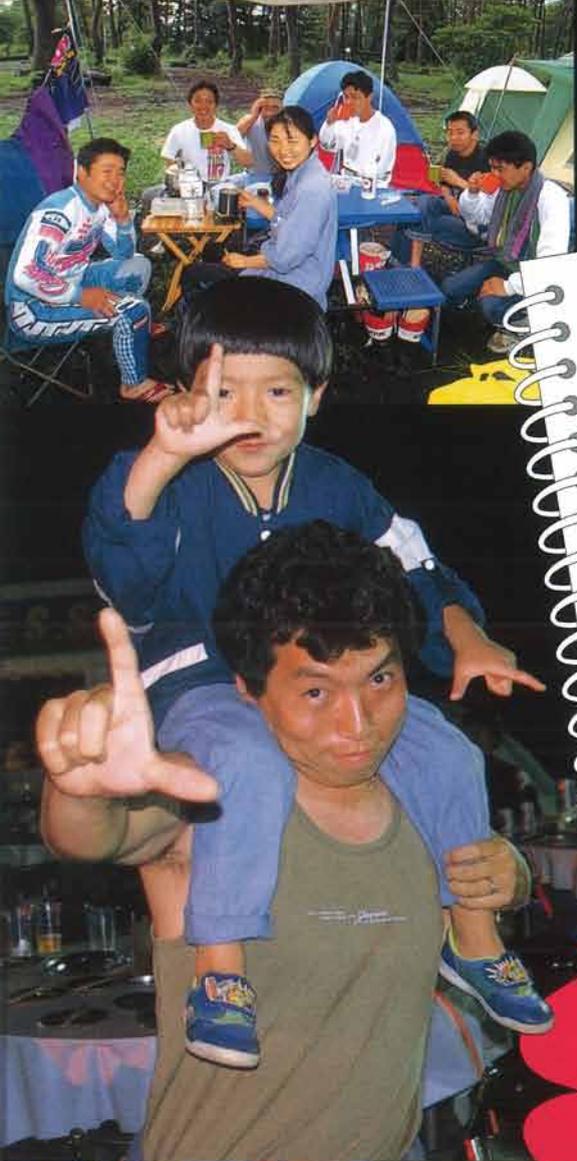
アースリーランにたくさんのご参加ありがとうございました。
800名のY.E.S.S.スタッフが集い、
真夏の一日を楽しみました。
ダイジェストでお楽しみください。

Y.E.S.S.アースリーラン in 青木湖

- 8月7日(土)~8日(日)
- 青木湖湖畔
(長野県大町市)
- 参加者300名

透明度で日本第2位の美しい湖、青木湖の湖畔で開催された中部会場。ゲストの平忠彦さんが自らツーリングで駆けつけるなど嬉しいハプニングもあり、大いに盛り上がりました。残念ながら夜のパーティは強い雨に見舞われましたが、日中の各種ゲーム大会は大好評。来場者すべての記念撮影やスーパーJOG-Zの当たる大抽選会、キャンプ場を使つての宝探しなど、オリジナリティあふれる内容が印象的でした。





Y.E.S.S.アースリーラン in 神鍋

●7月17日(土)~18日(日)
●神鍋高原
(兵庫県城崎郡)
●参加者800名

兵庫県北部に位置する神鍋高原は、冬はスキー客で賑わうリゾート地。地元のみなさんのボランティアの協力もあり、800人のY.E.S.S.スタッフが大自然を楽しみました。この日のメインイベントは会場を隣の万場高原に移してのオープンエンデュロレース。自然の地形を活かしたコースで、TT250Rをはじめとするニューモデルが大活躍しました。また神鍋高原での開催を記念して3本の桜を植樹、数年後の春にはきれいな花を咲かせることでしょう。

'93 Y.E.S.S.ア たくさんの笑顔

Y.E.S.S.最大のビッグイベント、'93 Y.E.S.S.ア
3年目の今年は全国3会場に合計
互いの親睦を深めながら
心の底から笑ったあの夏の日を、



SUZUKA 8 HOURS ENDURANCE RACE

●7月20～22日 ●鈴鹿サーキット

ご声援ありがとうございました

ヤマハ3チームの8時間、その闘い。

今年も12万人の観客を集めて開催された鈴鹿8時間耐久レース。ヤマハチームはエースのケビン・マギーを負傷で欠き、またトップ走行中の藤原/永井組が予期せぬトラブルに見舞われるなど、さまざまなアクシデントの中で出場3チームが完走を果たしました。たくさんのご声援、ありがとうございました。

1位	S.ラッセル/A.スライト	カワサキZXR-7	8時間01分13秒713	207
2位	E.ローソン/辻本 聡	ホンダRVF750	8時間03分38秒798	207
3位	青木拓磨/M.スミス	ホンダRVF750	8時間02分04秒474	206
4位	M.ドゥーハン/D.ピーティアー	ホンダRVF750	8時間02分37秒242	206
5位	塚本昭一/北川圭一	カワサキZXR-7	8時間02分53秒303	206
6位	武石伸也/岩橋健一郎	ホンダRVF750	8時間01分19秒419	205
7位	A.パロス/P.ゴダード	スズキGSX-R750W	8時間02分26秒533	204
8位	高橋勝義/ケニー・ロバーツ・Jr	ヤマハYZF750	8時間02分52秒068	204
9位	S.ジャイルス/吉川和多留	ヤマハYZF750SP	8時間02分24秒125	203
10位	M.ドゥーハン/A.ビエラ	スズキGSX-R750W	8時間02分04秒474	202



21 KIRIN BEVERAGE RT YAMAHA/YZF750 Norihiko FUJIWARA/Yasutomo NAGAI

トップを快走した中盤戦 誰もが日本人コンビの優勝を考えた……

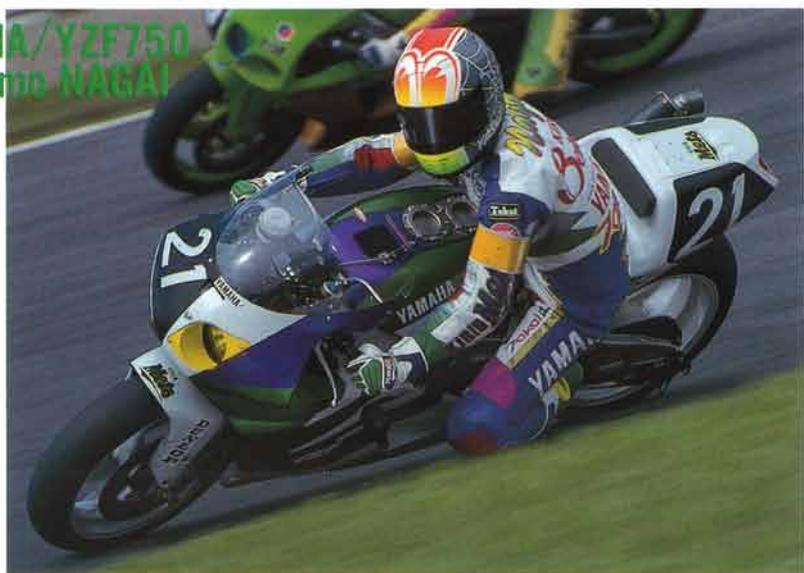
予選A組4番手(藤原儀彦/2'13'891)
決勝32位(188周)



トラブル後ピットに入り、ヘルメットも外さずモニターを見る永井。快走するライバルに何を思う



7回給油作戦は成功したかに見えた。中盤まではすべてが台本どおりに進んでいたのだ



YZF750SPベースの第3世代YZF750は、耐久マシンとしては理想的な仕上がりを見せたはずだった。が、しかし……

「今年の目標は、もちろん優勝です」
決勝を翌日に控えた土曜日の午前中、永井の口から優勝という言葉が飛び出して、正直言ってびっくりした。藤原と組むのは今年で3年目になるが、優勝という言葉が口にしたのは初めてではなかったか。

言動には慎重な永井がこうキツパリと言い切ったのは、3つの大きな理由があったと思う。ひとつにはマギーの欠場。彼が出場しないとすれば、藤原/永井組に大きな期待がかかるのは当然のこと。責任感の強い永井が「自分たちの力で……と考えるのは自然のなりゆきと言える。」

そして、クライマックスに自らの転倒で悔いを残した昨年のレース。この雪辱戦であったことがふたつ目の理由。最後に自分の作り上げたワークスマシンYZF750が、かなりのレベルで完成していたことが彼自身に大きな自信を与えたのではないだろうか。

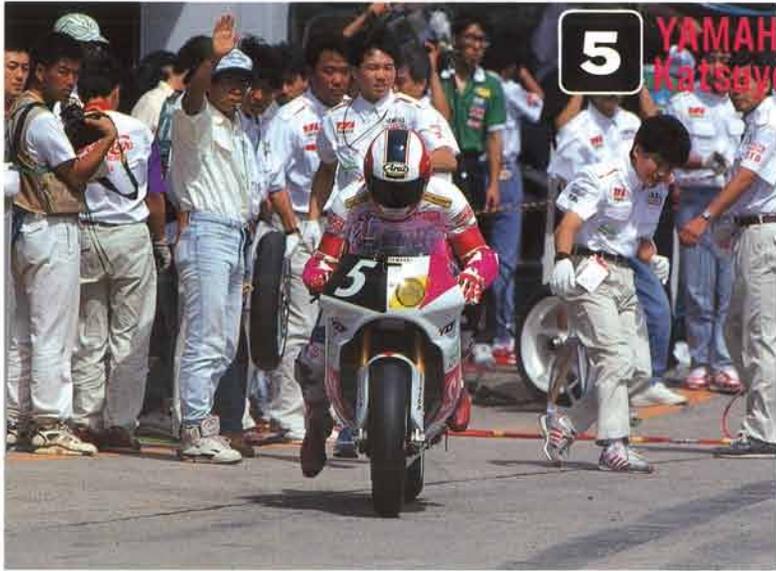
事実、耐久仕様のYZFで全日本ロードTF1クラスに参戦していた永井は、特にエンジンのパワーアップに対して自信を持っていたようだった。もともと自由度の高いハンドリングはライバルを大きく上回っており、パワーとの折り合いが合った今年のYZFは、理想のプリント耐久マシンに仕上がっていたはずである。

こうした裏付けと、作戦面(従来よりピットインが1回少ない7回給油など)の成功により、藤原/永井組がトップに躍り出たのは予想より早い88周目だった。この瞬間、誰もが日本人コンビの優勝を夢見たに違いない。

しかし、149周目に思いもよらぬクラッチ系統のトラブルが発生。この対応で8分間に及ぶ1回目のピットインを合わせ、合計3回のピットストップを強いられる。この時点で一気に40番手前後までポジションを落としてしまった。万事休す。

「尻上がりに僕自身の調子が上がっていたのに、こんな結果になってしまった。申しわけない……」

言葉少なにこう語った永井だが、ナイトランとなった最後の走行で驚異の2分17秒台を連発した彼のライディンクは、そうした彼の思いすべてがぶつけられているようにも見えた。



5 YAMAHA SATY RT/YZF750 Katsuyoshi TAKAHASHI/Kenny ROBERTS Jr.

エース・マギーの欠場と チャンスをつかんだ即席コンビの健闘

予選A組8番手(ケニー・ロバーツ・ジュニア/2'15'360)
決勝8位(204周)



父親に「似ている」とも「似ていない」とも言われたジュニアのライディングは、終始安定していた
チームスタッフによって開かれたジュニアのバースデーパーティ。決勝の朝、ピット裏にて

高橋とジュニアの体重差は10キロ以上。サスセッティングではふたりの好みの中間が取られたという

決勝はチェンジベダルの脱走により、ほぼ最後尾からの追い上げとなったが、タイヤのカスやオイルラインでコースコンディションが慌れる中、その後は両ライダーともに安定した走りを見せ、終わってみれば8位でゴール。鈴木孝明監督は「70点のレース」と振り返っていたが、内心はホツツと振り返ってはいないだろうか。なにしろ本番直前ですべての作戦の軸となるエースを欠いてしまったのだから……。

決勝日に20歳のバースデーを迎えたジュニアは、「来年もこのレースに出たい」とかくい誕生日が送られて良かった」と笑った後、「今度はトップ3に入って見せるよ」と自信をのぞかせていた。

木曜のフリープラクティス。観客もまばらの鈴鹿サーキットで、その事件は起きた。誰も予想できない大きなアクシデントだった。

過去7回の8耐出場場で優勝2回、2位3回のキャリアを持つマギーが、転倒により左手首を故障してしまったのである。すぐにサーキット近くの病院に飛び込んだものの、診断の結果は無念の「出場不可能」だった。

代役に立ったのは第3ライダーとして登録されていた高橋である。今シーズン全日本500CCクラスで健闘こそしているが、4ストロークのビッグマシンの経験を彼はほとんど持っていない。それはコンビを組むロバーツ・ジュニアにしても同じで、初めてつくしの急造ペアで3日後の決勝を走ることになったのである。

マゼンタに染められたチームのツナギを木曜日の昼にオーダーした高橋は、持ち前の明るいキャラクターも影を潜めて、さすがに緊張しているように見えた。「最後まで走り切ることが自分の仕事だと思って頑張ります」と、同じ言葉は何度も繰り返していたのが印象的だった。

一方、コンビを組むジュニアは、8耐ウィークの前のテストでYZFを乗り込んだため、予選でも着実にタイムを伸ばしていた。「エディ(ローソン)やドゥーハンと一緒に走れるのが、僕にとってほんと嬉しいこと」と、アメリカからしく陽気なところも見せていた。

6 YAMAHA Y.E.S.S. RT & YSP/YZF750SP Shawn GILES/Wataru YOSHIKAWA

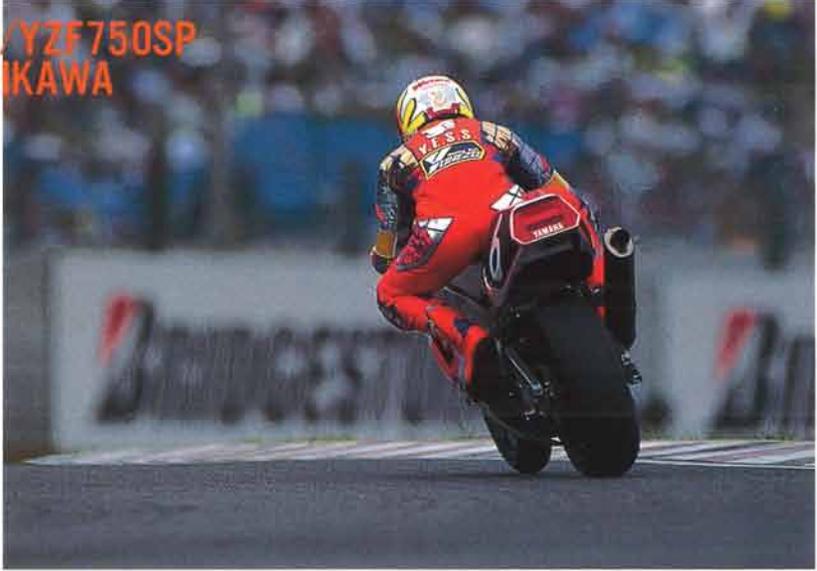
12万人を沸かせた吉川の走りに 8耐の面白さの原点を見た

予選B組3番手(吉川和多留/2'14'044)
決勝9位(203周)



「応援してくれるY.E.S.S.の会員とYSPのみなさんのために……」笑顔でファンに応える気さくなコンビだ

「もう一度ヤマハで8耐を走りたい」と、レース後のジャイルス。安定感の高い走りて評価を高めた



ワタルコールを呼んだ吉川の中盤の走り。ジャイルスより2秒速く、リッター当たり2キロの燃費をかせいだ省エネ走法(?)

それでも吉川の走りはスタンドの目を引いた。本人は「転ばないだけのマージンを保っていた」と言うが、各社のワークス勢を追いまわし、時には後方へと追いやる姿にスタンドは沸いた。10番手を走る中盤には1コーナー寄りのグラウンドスタンド(Y.E.S.S.シート)からワタルコールが起ったほどだ。

ジャイルスはタイム的には吉川から2秒ほど落ちていたが、安定感の高さは満ちていた。しかし本人は自分のタイムに満足していない様子で、あれこれチャレンジャーに見ながら吉川は「ジョーン」としては8耐がメジャーへの大きなチャンス。どうにかいい成績を残して彼の力になりたい」と話していた。

大きなトラブルもなく9位で完走したジャイルス/吉川組。目標のトップ10は果たせたので満足しています!!というコメントは、チーム全員の共通意見だったことだろう。

「もう少し英語の勉強しとけば良かったですよ」

ジャイルスとのコンビネーションについてたずねると、吉川はこんなふうに出ていた。「英語ができたらもっと面白かったでしょうね」と。

とにかくジャイルス/吉川組のピットは明るかった。緊張感はあるものの、空気が明らかに違っていたのだ。猪崎次郎監督自ら「とにかく楽しんでレースをし、結果的に上位で完走できたらと思っています」と話すとリラックスしていた。

その明るさの源は、どうやらジャイルスの応援に駆けつけた彼の両親によるものだったらしい。オーストラリアからやって来た夫妻は連日ピットに陣取って、軽いジョークを混えてはチームに笑いを振りまいていた。無事ジャイルスがチェッカーを受けた時に一番ハシヤイでいたのも、やはりこのふたりだったように思える。

とは言っても、チーム内に不安な材料がなかったわけではない。典型的にはそう大差のない両ライダーも、いざポジションのセッティングとなるとまったく意見が合わなかった。しかも鈴鹿入りしたその日から出たチャタリングが最後まで解決せず、決勝までに万全のコンディションが整えられなかったのである。

TOPICS



ナイスライド募金オークションも合わせて行なわれ、各地でたくさんの善意が寄せられた

今年も各地で大好評！ 地方色も豊かになった '93 Y.E.S.S. サマーフェスティバル

Y.E.S.S.が贈る真夏の祭典としてすっかり定着したY.E.S.S.サマーフェスティバル。今年も各ブロックごとの特色を盛り込み、全国各地で開催されました。

まず7月10日、11日と全国の口火を切ったのが、Y.E.S.S.東北ブロック主催による「'93サマーミーティングin東北」。岩手富士とも呼ばれる雄大な岩手山の裾野に、240名のスタッフが集合。ゲストに迎えた平忠彦氏を中心に、ナイスライド募金

オークションやバーベキューパーティ、エンデューロレースにオフロード試乗会、さらには美しい自然を守ろうとクリーンウォークラリーと、豊富なアトラクションを満喫。

続いて7月17日、18日の両日は恒例となった筑波サーキットを舞台にした東京ブロックの「サマーフェスティバルin筑波」。あいにくの梅雨空にもめげず、この日は7000名が駆けつけ、サーキットならではの2日間をエンジョイ。TZ50、TZ

R50による4時間耐久レースやSRVカップなど、白熱のレース展開に沸いた後は、全日本ロードレース選手権で活躍中の難波恭司選手と加藤義昌選手を巻き込んだのチャリテイオークションや各種ゲームイベントを堪能。ナイスライド募金への理解を深めようと盲導犬も登場し、大きな盛り上がりを見せました。

さらに盛り上がりで負けていないのは中国ブロックの「'93夏のバイク祭り」。初の試みとして4メーカー合同で開催されたこのイベントは、Y.E.S.S.特選宿泊施設にもなっている広島県のグリーンパーク弘楽園を会場に7月31日、8月1日の両日にわたり開催。ゲストの平忠彦氏によ

るトークショーをはじめ、綱引き大会や腕相撲大会などのユニークなアトラクションを通して、詰めかけた2000名のライダーは、より大きく友情の輪を広げました。



7月31日、大串自然公園に385名が集まった「第10回サマーフェスティバルin四国」では、ゲストに全日本MXライダー田淵武選手を招待。早飲み大会、大火花大会などイベントも大盛況となった

80から250まで充実した '94ヤマハYZシリーズ 専門誌に向けて試乗会開催

新設計125ccエンジン投入、ラージホイール80cc設定などラインナップも一段と充実した'94YZシリーズ。YZ250の8月発売を皮切りに順次市場導入を進めています。さる8月4日、二輪専門誌を対象に浜北トレイルランドで試乗会が行なわれました。前日の雨でマッドコンディション下での試乗会となりましたが、15媒体約35名の関係者が参加。YZシリーズそれぞれの性能チェックや開発スタッフ陣との質疑応答など、活発に行なわれていました。



エンジン特性、ハンドリングと高い評価が集まったのがYZ125。ワークスライダーによるデモンストレーションも披露

得たのがYZ125。「つきが良く、伸びもあり、リニアなエンジンだ。エンジン特性が良いから悪い路面で



各部の見直しにより、一段と高い戦闘力を身につけた'94YZシリーズ

もコントロールしやすくライン自由度も広い」とは、国際A級で専門誌テストライダーのコメント。詳しくは9月発売の各誌に紹介されることになっています。



色とりどりのパラソルが咲いた。4メーカー合同のサマーフェも行なわれ、参加者からは夏のバイクライフを満喫できたと大好評

人と地球に優しい新技術 注目の電動ハイブリッド自転車 『ヤマハ・パス』今秋発売へ！

『ヤマハ・パス』は、人間感覚を最優先した、人にやさしく地球にやさしいパーソナルコミュニーターをめざして開発した、世界初の電動ハイブリッド自転車です。

人間がペダルを踏む力と、その力に応じた電動モーターによる補助動力を合わせて後輪を駆動するという画期的な技術。パワートアシストシステム(PAS)を採用し、登り坂や向い風、荷物積載時などで運転者の負荷が増大する自転車の基本的な弱

点を補っているのが特徴。

同時に、騒音、排気ガスが出ないクリーンさ、運転免許が不要な軽便さといった自転車本来の魅力も兼ね備えています。

今春、開発発表を行なって以来、その商品化について多方面の注目を集めていましたが、いよいよ今年11月の発売が決定し、7月27日には、東京都内のホテルでプレス発表試乗会を開催しました。

この日は、テレビや新聞、一般雑



フル充電での航続距離は20km。途中バッテリー切れしても、通常の自転車走行が可能で、充電は専用充電器を使って家庭電源でOK。専用充電器は15000円(別売)

誌など約150媒体256名の報道関係者が出席。商品説明会のおと、ホテル敷地内に特設試乗コースを用意し、ひとりずつ「パス」初体験にチャレンジしていただきました。

残念ながら十分な距離の試乗はできませんでしたが、坂道で通常の自転車と「パス」を乗り比べる方法を取ったことで、「パス」の特長がはっきりと実感できたこと好評。

「ペダルを踏む手応えが過度に軽い」「ぶつうの自転車のつもりでペダル

をこぐと、思った以上にクンクン坂を登っていく」「異和感がほとんどなく自然に、ラクに走れる」などの声が聞かれました。

なお、発売は11月1日、'93年度1000台を神奈川、静岡・兵庫の3県、ヤマハ・パス・ショップ、100店で限定販売し、メンテナンスなど健全な普及環境をかためながら順次拡大していく予定です。価格は13万4000円(メーカー希望小売価格。専用充電器15000円別売)。

真夏のビッグイベント 『ズズカ8耐』が残した それぞれのシーン'93

今年も、真夏の祭典「鈴鹿8時間耐久レース」がさまざまなドラマを残して幕を閉じました。

中盤、トップ争いを演じた永井／藤原組をはじめ、ヤマハワークスチームは表彰台こそ逃したものの、見応えのあるレースを展開。

また、プライベート勢では20位、21位に入った近藤靖典／川田俊治組、斉藤光雄／山本隆義組といったYZF750SP、FZR750Rユイザーチームの健闘も光っています。

さらには、今年3年目のチャレンジとなる静岡県磐田市市民代表「いわたトンボ」チームは、地元高校生の特派員リポーター派遣、車体カラーリングとPR看板、トンボグッズ製作などの協力を得てガンバリましたが、惜しくもリタイア。再び来年

へ夢を託しました。

一方、NB、NAの晴れ舞台である4耐、6耐では、ヤマハTZR250R・SPを駆るチームが大活躍。静岡県浜松市の中央モーターズ商会から4耐にエントリーした八木要／山下裕介組は、雨の中、転倒やトラブルが続出するライバルを尻目に安定したラップを重ね、初の決勝進出で初優勝の快挙を飾りました。

また、6耐ではポールポジションを奪ったRC甲子園の谷信行／前田



セミアップ型、オールラウンダー型とハンドル形状で2タイプ、計3色のバリエーション

誠治組が3位表彰台をゲット。さらに、チームYPSの森修一／高峰寿三男組、チームモトスポーツの田口博行／源馬弘之組も5位、6位に入賞しています。



八木／山下組は、初めての決勝進出でドライコンディションのセッティングデータは皆無という状況から、雨を味方につけて4耐初優勝を飾ったシンデレラボーイズ



いわたトンボチームは、4耐、6耐にもエントリーし、それぞれFZR400RRで33位、TZR250R・SPで27位と完走

TOPICS

北海道沖地震の被災者へ MFJトリアル選手会が 義援金を贈呈

北海道・奥尻島を中心に、多大な被害をもたらした北海道南西沖地震。

その発生から早や2カ月が経過しましたが、復旧作業が行なわれている今も、被災した方たちの心には深い傷あとを残しています。

そこで、少しでも救済活動に役立ててほしいと全国からさまざまな形の義援金が寄せられています。8月1日、同じ北海道の夕張バイパスレース会場とする全日本ト



リアル選手権第4戦に出場した選手たちもこの活動に協力。レース終了後、自ら身に付けていたウェアやブーツ、グローブなどを各選手が持ち寄り、表彰式の場を借りてチャリティオークションを行いました。

この日、会場に集まった入場者のみなさんに買ってもらった代金は14万4030円。それをそっくり、選手会長の山本昌也選手がMFJ札幌トリアル委員会委員長を務める鈴木谷孟さん（YSP札幌中央社長）に手渡し、北海道新聞社を通じて日本赤十字北海道支部に届けられています。

奥尻島付近は小刻みな群発地震など、まだ余断を許さない状況のようですが、被災地のみなさんは早く元氣を取り戻してほしいものです。



ヤマハのP・クトゥリエ選手(中)や伊藤選手、中川選手もジャンパーやジャージを提供

7人組のニューアイドル 『黒ブタオールスターズ』 ヤマハの応援で歌手デビュー!

コミック誌『ヤングマガジン』を

はじめ、テレビ、ラジオの『黒ブタ天国』などで活躍し、ヤングを中心に人気急上昇中の美少女アイドル



黒ブタオールスターズのメンバーによるスタンプラリー。変装してるコもいたから、彼女たち全員を探すのはちょっと大変

ループ『黒ブタオールスターズ』。

ヤマハは、以前から『ヤングマガジン』誌上でスーパーJOG-Zとのタイアップ企画を通じて注目してきましたが、この夏、彼女たちがいよいよ歌手デビューすることになり、7月24日、ヤマハ特別協賛によるデビューイベントが賑やかに行なわれました。

長びいた梅雨のおかげで当日はあいにくの雨。それでも、会場となった東京・としまえん遊園地には多数のファンが集まり、広い園内で『黒ブタAS』メンバーを探し出すゲームや、ブルサイドでのミニコンサ

ートを盛り上げました。特に、デビュー曲『あなたにお願い申し上げます』を水着姿で披露したり、スーパーJOG-Zが当たるビッグな抽選会を行なったミニコンサートは、ファンの元気な声援、歓声に包まれ、冷たい雨を吹き飛ばす熱気があふれていました。



スーパーJOG-Zを引き当てたのは、東京都の会社員、逸藤章造さん。幸せいっぱいの笑顔はJOGのせい？ それとも……？

GPライダーみたいに走りたい! ヨーロッパでも大人気の サーキットライディングスクール

日本でロードレースファンに高い人気を誇るサーキット走行会やライディングスクールは、世界グランプリの本場、ヨーロッパでもやはり大変な人気。

8月1日〜4日まで、ヤマハモーターヨーロッパがドイツのニュルブルクリンクサーキットで開催した『ヤマハ・アドバンスド・ライデ



会場となったニュルブルクリンクサーキットは、かつてロードレースGPやF1GPも開催した名門コース

イングコース」も、ヨーロッパから125名のライダーが集まりました。

このスクールは、YZF750RやFZR1000などヤマハスーパースポーツ車のお客さまを対象に行なっているもので、ライディング技術を高め、またスーパースポーツモデルを正しく理解し本当の楽しさをトコトン味わってもらおうというのがその目的。

16人のインストラクターのもと、コーナりのライン取りやブレーキングなどを教わりながら、4日間じっくりとサーキットランを満喫し、GPライダー気分には浸っていました。

TOPICS



お客さまとお店の 交流記。 夏休みは信州へ ……の巻

8月1日 広島に出張した際に、飛び込みで入ったとあるバイクショップで懐かしいものを発見した。なんと、ヤ

マハ時代のリック・ジョンソンのサイン入りTシャツだ。¥3200の値ぶだがついていたが「いまでもリックのファンなんですよ」というご主人は、大サービスの¥2500で売ってくれた。ラッキー!!

8月7日 今日から待ちに待った夏期休暇だ。今年是不景気のせいか仕事もさほど忙しくなく、驚異の9連休が実現した。会社員になって6年目、初めての真正正統、完全無欠の夏休みだ。本来なら今日からグリーンピア津南

で開かれるアースリランに参加するつもりだったが、その後ふたりの友人から信州へのツーリングに誘われて、断りきれずにアースリランを断念。結局2台のセローとDT200WRの合計3台で、夏の信州を走り回ったことにした。せっかくなので、YOU S HOPのみさん本当にゴメンナサイで、初日は白馬を目指して高遠道路をバビコーンと飛ばし、豊科ICで下りてR147を一気に北上した。すると国道の左手に見慣れた文字を発見。大きな横幕のまん中にYESと書いてある。偶然にも白馬への途中の青木湖で中部プロックのアースリランに出発してしまったのだ。

会場入口で「実は東京から来たんですが……」とスタッフの方に話すと、「今日はここに泊まっていたらどうですか?」と言ってくれた。特別な目的もない僕たちのこと、お言葉に甘えて青木湖の湖畔にテントを張らしてもらったことにする。

8月8日 キャンプ場で遅くまで起きていた僕たちは、なんと予定より3時間も寝坊してしまった。あわててテントをしまい込み、親切にしてくれたヤマハのスタッフの方々にお礼を言い青木湖を出発。白馬を目指した。この日は2本の林道を含めて150キロ近くを走り、田沢湖のユースホステルにてエックイン。翌日は長野市を抜け関越自動車道に出て東京に帰った。

8月15日 約1年、ノーマルの車両のまま走っていたセローだが、2泊3日のキャンプツーリングに出て多少種能力の不具合を感じたため、リヤキャリアを装着することにした。例のショップでいろいろなメーカーのキャリアを見せられたが、結局は「純正品が一番」というアドバイスに従ってパーツをオーダー。来週末には部品も届き、さっそく装着できそう。

『夢の船コンテスト』全国大会 ヤマハ社員チームが 見事ワン・ツー・ファイニッシュ!

自分たちの夢を自らカタチにして、そのアイデアを競う「夢の船コンテスト」全国大会が、夏空の広がる8月1日、東京都の平和島競艇場で開催されました。今年で第3回目になるこの大会、満員のギャラリイが見まもるなかで、日本一をめぐりさまざまなアイデア船が集合。

なかでも200mの直線コースでスピードを競う「人力スピード船舶部門」では、ヤマハ社員有志の「コギトII号(前回優勝)」と「フェニックスIII号(前々回優勝)」の有力2チームが話題を独占。

1 地区大会を勝ち進んだ28隻に、シード出場(前回トップ2)の2隻を加えた予選では、「フェニックスIII号」が前回の大会新記録を5秒も上回るタイムを出し楽々クリアすれば、一方の「コギトII号」も、他を圧倒するタイムで予選トップに躍り出ました。準決勝を勝ち抜き、決勝へ進出したのは、この2隻を含む計6隻。他の強豪を相手に決勝レースでは、「フェニックスIII号」がスタートと同時にリード。しかし後半、スタートをかけた「コギトII号」が前へ出て、そのままゴール。終わってみれば、ヤマハ社員有志2チームがみごと、1、2フィニッシュを飾りました。



昨年の記録を1秒も上回る速さで優勝した「コギトII号(手前)」と、おしくも0.67秒で2位となった「フェニックスIII号」。圧勝に酔いながらも、スタッフの夢は早くも来年へと向かう



クロールで泳いでしまう、まさに「夢の船」も出場のアイデア船舶部門



昨シーズン、実戦の中でTY250Zの開発を進めてきた中川。TY-Zの高い完成度は彼の貢献が大きいだけに、頑張ってる感じが伝わる

ALL JAPAN
TR
全日本トライアル選手権第4戦・北海道大会
中川義博に復活の兆し
2年ぶりの表彰台へ!!

市販車TY250Zを駆り、V2街道を独走中のバスカル・クトゥリエ。もはや全日本トライアルはクトゥリエのひとり舞台となりつつあるが、ランキング2位以下の争いは非常に興味深くなっている。

現在ポイントテーブルでクトゥリエを追うのは、昨年度ランキング3位の三谷英明(ホンダ)。この三谷から5位の小谷徹(ベータ)までの得点差がわずか18という大接戦。その中のひとり成田匠(ベータ)はスポ

ット参戦のため、実質的には三谷、小川友幸(ベータ)、中川義博(ヤマハ)、小谷の4人によって2位争いが繰り広げられている。

この中で特に注目したいのは、やはり元全日本チャンピオンの中川だ。昨年来の不振からやっと復調の兆しを見せ始め、北海道大会では約2年ぶりの3位表彰台に立って見せた。本人もこの成績に自信をつけて「久しぶりの表彰台はやっぱり嬉しかった。自分もマシンも調子がいいので後半はランキングを回復させたい」と元氣一杯。巻き返しが期待されている。

なおこの第4戦を2位で終えたクトゥリエは、これまで同様スタンダードのTY-Zで参戦中。誰でも買えるマシンで、ぜひチャンピオンを取りたい」と、こちらも闘志を燃やしている。



8月1日の北海道大会で、一昨年の近畿大会以来の表彰台に立ち笑顔いっぱいの中川。クトゥリエも健闘を讃える



ホールショットを奪った光安のスタート。かつて天才と呼ばれたこの男に、二桁ゼッケンは似合わない

ALL JAPAN
MX

全日本モトクロス選手権第7戦・東北大会
役者が揃ったヤマハチーム
ベテラン勢の逆襲が始まる!?

日本人勢のトップを走っていた増田智義がケガで欠場して2戦、やや淋しい感のあったヤマハレーシングチームに、懐かしい顔が帰って来た。今シーズン前半を世界GPへのチャレンジに費していた川崎智之だ。

増田ら若手の台頭が著しい中で、数年前にわたりヤマハチームを支えてきた光安鉄美、田淵武、そして川崎の3人が久しぶりに顔を揃えたわけである。役者の揃った舞台でひとときわがを吐いたのは、今年で35歳のベテラン

光安だった。シリーズ序盤はケガで苦しんだものの、ようやくトレーニングも再開し、北海道大会ヒート2では6位入賞。体調も上向きとのことでこの東北では第1ヒート3位、第2ヒート4位の総合2位を獲得している。

一方、ヨーロッパの経験をどうにか全日本で生かしたい川崎は、第1ヒートのスタートで大きく遅れをとったものの、ガマンのレースに徹して6位でゴール。続くヒート2も8位でレースを終えて総合5位を獲得



「自分に負けずに頑張りたい」と全日本復帰へ力強い決意の川崎。総合5位を獲得



いまひとつ乗り切れなかった田淵も、ヒート2で2位入賞。後半の巻き返しに期待したい

した。本人は「ヨーロッパ行きを応援してくれた人たちの期待に応えたい」とやや緊張気味だったものの、まずまずの復帰レースだったと言えるだろう。

また田淵も第2ヒートに光安とのバトルの末2位を獲得するなど、世代交替に待ったをかけるヤマハチームの活躍が目立ったレースだった。なお増田は第8戦瀬戸大橋大会からレースに復帰し、総合5位と元氣な姿を見せた。

スプレッド・エックス・タレン・レーシング・ヤマハ



後半戦も残りわずかの第10戦イギリスGPで、初タイトルに向けて快走していたケビン・シユワッツがよもやの転倒リタイヤ。この結果固く2位でレースをまとめたウェイン・レイニーが20ポイントを加え、ついにポイントリーダーのシユワッツを射程距離にとらえることになった。

今季、人が変わったような安定感を見せていたシユワッツにとって、ノーポイントのレースはこれが初めて。同じように一度のリタイヤもなくポイントを重ねてきたレイニーが、その差3ポイントまで詰め寄ったのである。「信じられない。何が起ったんだ？」とレース後にシユワッツは語ったが、それもそのはず転倒はマイケル・ドゥーハンのブレーキングミスによる接触が原因で、すでに首位固めに入っていた彼にとって寝耳に水のアクシデントだった。原因が自分のライディングではなかっただけに、悔やんでも悔やみきれないというのが正直なところだろう。

だが「信じられない」と思ったのはレイニーにとっても同じである。前日の予選中に転倒を喫し、そのダメージを抱えての決勝レースだった。第9戦までのポイント差23はすでに自力優勝の可能性が薄い数字であり、その上でハンデを抱えるとなるとレイニーが半ば諦めていたとしても不思議ではない。そんな数パーセントの可能性さえも消えなかったと

そしてレイニーが来た

—首位シュワツの転倒で王者レイニー急浮上—

原田哲也、初の転倒リタイヤ 肩の骨折もチェコGP出場はOK

今季開幕戦で世界GP初優勝を飾って以来、安定した速さで常にランキングトップを保ってきた原田哲也だが、第10戦イギリスGPでC・チカの追突を受けて初めての転倒リタイヤを喫する。大事には至らなかったものの肩の一部を骨折しておりしばらく休養を取る予定だが、本人は「自然療法で治したい」と2週間後のチェコスロバキアGPには参戦する見込みだ。

このリタイヤによってL・カピロッシとのポイント差は25まで縮まり、GP2クラスも混沌としはじめた。一刻も早い回復を祈りたい。



'93世界選手権ロードレース・ポイントランキング(8/1現在) (GP1クラス)

順位	選手	マシン	第1戦 オーストラリア 3/28	第2戦 マレーシア 4/4	第3戦 日本 4/18	第4戦 スペイン 5/2	第5戦 オーストリア 5/16	第6戦 ドイツ 6/13	第7戦 オランダ 6/26	第8戦 ヨーロッパ GP 7/4	第9戦 カナダ 7/18	第10戦 イギリス 8/1	ポイント 合計
1位	K. シュワツ	スズキ	25	16	20	25	25	20	25	16	20		192
2位	W. レイニー	ヤマハ	20	25	25	20	16	11	11	25	16	20	189
3位	D. ビーチ	ホンダ	13	20	16	10	9	25		13	10	10	126
4位	M. ドゥーハン	ホンダ	13	13	9	13	20		20	20	25		120
5位	伊藤 真一	ホンダ	9	10	13		10	16	10		13	11	92
6位	L. カダローラ	ヤマハ	9			11	11	8	9	1	11	25	84
7位	N. マッケンジー	ROCヤマハ	8	8	3	9	5	7	8	10	8	16	80
8位	A. クリビール	ホンダ	6	11	11	16			13	16			77
9位	A. バロス	スズキ	10	9	10		13				11	9	63
10位	D. チャンドラ	カシバ	11	7	5		8	10	13				59
11位	M. ムラディン	カシバ	16	6			6	9			7		35
12位	J. ロベス メラ	ROCヤマハ	7	3		8	3	8		9		9	34
13位	J. クーン	ROCヤマハ	3			2	7	2	3	8	6	4	33
14位	B. ガルシア	ヤマハ	3					6	5		5	3	23
15位	R. コレオーニ	ROCヤマハ		1		3				6	4	8	22

ころへ、この決定的なチャンスが転がり込んできたのだ。
さて残り4戦、タイトルの行方はどうなるのだろうか？ ひとつ言えることは、今シーズン幾度となく変更されてきたYZR500のフレームが、このレースで投入された新型に落ち着きそうな気配であるということだ。しかもニューフレームはかなり完成度が高く、今後のレースを有利に進める材料となるのは間違いないだろう。

なお政情不安のために開催が危ぶまれていた最終戦の南アフリカGPは、この度正式に中止決定が出され、代替地としてスペインハラム)で9月26日FIM・GPが開かれることになっている。

速報 8月22日に開催された第11戦チェコGPで、W. レイニーが独走の優勝。今季4勝目を挙げ、シリーズポイントでも単独トップに立った。またGP2ではケガを押してエントリーした原田哲也が6位入賞を果たし、こちらもランキングリーダーを保っている。

レーシング・ワールド

68

年にトレールD T-1を発売して以来、ヤマハは全国各地で数多くのオフロード・ライディングスクールを開催してきた。豊富な経験を蓄積して得られたスクールでのノウハウは、すでに「オフロードYRS」に活かされている。そして、ヤマハはさらに人的な広がりを持たせるために最近では全国で50名ほど公募して、一般の方をオフロードYRSのインストラクターとして育成した。

オフロードYRSはオフロードライディングの魅力、少しでも多くの人に伝える機会を作るといふ意味で非常に意義深いものがあつた。ただし、メーカーないし販売店主導のもとで行われるのがこれまでの常識だった。でも、一般の方の中から専門のインストラクターを育成することで、スクールのイメージがより一般性を持つものになつたのではないだろうか。

初

めからスマートにできるかどうかは別として、場数を踏めば洗練されたインストラクターとしてどんどん成長することだろう。そして優れたスクーリングは、きつとより多くの参加者の感動をさらに大きなものにするだろう。「少しでもうまくなりたい」「安心して走れるようになりた

い」といった参加者の純粋な気持ちを大切にすることで、もっと大きな夢に挑戦するようにもなる。

そのためにはヤマハが培ってきた具体的な要領と手順がある。1. ライディングのコツを覚えたい気持ちにさせる。2. 正しい順序で少しずつ教える。3. 課題の目的を理解させ確認を取る。4. やって見せ、やらせてみる。5. うまくできたら褒める。6. 褒められた後に若干のアドバイスを加える。7. わから

ないところがあるか、を質問して確かめる。そのほかに動作はわかりやすく、専門用語は使わないなどの注意点も加わる。

このほかにはライディングフォーム、発進と停止など上達のための効率の良い具体的な基本カリキュラムが用意されている。会場や参加者の状況を参考にして、参加者を飽きさせないで、無理を強ひず、楽しさ、満足感を与えるような内容に努めると同時に演出面の工夫もされているようだ。

販

売店が営業活動に専念し、インストラクターはスクール内容の充実に努めることで、これまで自前でとりあえずやっていたスクールよりも熱意と効率が優れたものになる可能性が高くなる。その理由のひとつは、スクールのサポート側に回ってスクールを客観的に見ることがよりよい内容にするヒントを見つけた反省ができる。つまり、たくさん見つけられた反省材料を次回に活かせるということ。また、意欲に燃えるインストラクターにはファンがで

バイクはうまくなれば
その分おもしろい
もっともっと参加しよう
オフロードYRS



きて、次回以降への集客につながるということ
と。事実、オンロード系でのスクールのこと
だが、インストラクターの熱意とキャラクター
に魅了されてスクールに継続的に参加してい
るショップやユーザーをたくさん知ってい
る。

さらに、インストラクターがあるショップ
のクラブ活動の中心人物となってリーダーシ
ップをとって「お客さまの満足度アップ」を
図っているところもある。それは自然発生的
にインストラクターがリーダーになったもの
だが、その満足とはもちろん「自在にバイク
を操れるように成長している自分」におもし
ろがっているお客さまを指す。

バイクはうまくなればなるほど面白くなる
乗り物であり、うまくなった人は、バイクを
ずっと乗り続けるもの。計らずしてそのショ
ップは経営的にも潤ってくるというわけだ。

最

初から収益上のメリットは出ないか
もしれないが、こうした地道な展
開こそ経営の基盤作りには欠かせな
いことではないかと思う。

そしてもうひとつ。オフロードYRSに限
らないことだが、乗車経験の少ないお客さま
は一般的に事故を起こす確率が高く、事故を
起こしてそのままバイクをやめるといふ実例
が少なくない。是非とも安全性向上のために
も、こういったスクールへの参加の呼びかけ
をしていただきたいと思う。

文/柏秀樹(モーターサイクルジャーナリスト)



Y.E.S.S.ショップと アースリーラン

真夏のビックイベント『Y.E.S.S.アースリーラン』に参加したショップとお客さま。アースリーランを通じてお客さまに楽しさをアピールする『バイクハウス ZERO』さんに聞いてみた。



**42名でアースリーランへ!!
お店はもちろん「臨時休業」**

「いやあ、久しぶりに思い切り走りましたよ」

Y.E.S.S.アースリーラン in グリーンピア津南の会場で、ひととき大きな輪をつくっていたバイクハウスZERO（埼玉県浦和市）さん。その中心にいた志村実社長の到着第一声がこれだった。

42名のお客さまを引き連れてお店を出発したのが朝8時。「せっかくのツーリングだから……」と途中白根山ルートを走り、全行程310キロを走破しての到着だった。

「これだけの大人数だし初心者もいますから、移動するだけでもひと苦労ですよ。途中でかなりまわり道もしたんで遅くなっちゃいましたけどね」と志村社長。2日間お店を臨時休業し、スタッフ総出で参加したアースリーランだけに、遊びにも貪欲な一面を見せていた。

ZEROさんといえばもともとミニバイクレースの主催で人気を得たお店だが、最近是这样したツーリングイベントやラ



アースリーラン2日目の朝、ミーティング後の「バイクハウスZERO」の42名



アースリーランで新たな 遊びの世界を広げて欲しい

イディングスクールを定期的に開催している。もちろん雑誌のモトチャンプと提携してミニバイクレースも継続中だが、現在はレース志向のお店からより幅広いお客さまに愛されるショップへ移行するための過渡期といったところだろう。

「言い古された言葉ですけど、やはりバイクを売るためには『遊び』が切り離せないんですね。うちもそれで一生懸命にミニバイクレースをやっているんですが、レースでフォローできるお客さんはごく一部だけ。他の大部分のお客さんはツーリング派なんです。ですから安全に楽しくバイクライフを楽しんでもらうために、いまうちでやってみようというスタイルやこうしたツーリングイベントが大切になってくると思うんです」

イベントに参加してもらって楽しさを教え、バイクの面白さを知ったお客さまが新たなお客さまを連れてくる。これはZEROさんがオープンした当時から実践してきた方法だ。その中のひとつとしてアースリーランを年中行事に組み込み、上手に活用しているというわけである。

「単店ではできない大きな規模のイベントに参加することで、お客さんも新しい遊び方を見つけていることができるかもしれません。そうしてどんどん遊びを広げていっていただければいいんですけどね。まあ、年に一度みんなが集まって大騒ぎするにはいい機会になってますよ」と話す志村社長自身、アースリーランの2日間を思う存分楽しんでいるようだった。

毎月の免許教室から取得、スクーター購入まで 一人ひとりのお客さまを大切に支援する



月1回、13年間続けた
免許取得の支援

「店」

の活動の前提として、まずいかにお客さまを
発掘するかということが大切だよね。ただ、
ウチの店くらいの規模では大がかりな宣伝は
できません。できる範囲のことを地道に続けるしかない
んですよ。

こう話すのは名古屋市緑区に『YOU SHOP 酒井』
を構える、酒井博久社長。酒井社長の言う「お客さまの
発掘」「需要の創造活動」とはいったい何だろうか。

YOU SHOP 酒井さんは、古い町並みを中核とし
た新興住宅地に立地する。お客さまの中心は買い物など
にスクーターを利用する主婦層。若者と違ってバイクが
身近な存在ではない主婦たちにとってお店をアピ
ルするかが酒井社長の商売テーマだった。「ものを売る前
に、まず主婦とバイクの間にある壁は何か考えたくんです。
お客さんたちの話を参考にしようと、やはりネックは
免許だった。主婦のみさんは免許をどのようにとった
らいいのかわからない方が多い。免許取得のところから
しっかり指導してあげることが店のアピールにつながる
と確信しました」

そこでさっそくヤマハの担当セールスと相談、当時始
まったばかりの免許教室を月1回開講することに決め
た。昭和55年のことだ。

以来13年間、YOU SHOP 酒井さんでは定期的な免
許教室を欠かしたことがない。

「別に大げさなことじゃないですよ。講師はヤマハの
営業所から来てもらって、教室に充てるのは店に続く自
宅の居間。見栄をはって余分な経費をかけるより、その
分長く続けることが必要ですから」

お客さまの原付ライダーの第一歩はここから始まる。
しかし、お店ではさらにお客さまの第二步、第三步を先
回りしたフォローを用意しているのだ。

「免許教室を終えて、ではさようならではいけない。

Hello
ナイスショップ

おまかせ!

原付免許



YOU SHOP 酒井 酒井博久社長



免許教室は酒井社長の自宅の居間で開かれる。飾らない雰囲気
が「教室」の堅いイメージを払拭し、和やかなものになっている。お
客さまへの告知は、クチコミと新聞チラシがメイン

免許を取るための知識を習い覚えても、お客さまには最大の難関・免許取得試験が待っているんですから。それに受かって免許証を手に入れるまでしっかり面倒を見てあげないと尻切れトンボでしょう」

緑区の住人が免許を取得するためにはクルマで20分かかる平針試験場まで足を運ばなければならない。そこで嬉しいのがお店から試験場までの送迎サービス。しかもお客さまの希望日に応じてというキメの細かさだ。

「お客さまにだって予定があるから、店側から送迎日を指定するわけにもいかない。個々の要望に応じてあげることが必要なんです。お客さまが免許を取得されるまで、何回でも送迎しますよ。いままで最高は7回通った方もいたな。もちろん請われれば定休日の火曜日にも送迎します。私が忙しいときには家内が代わりにいたりね」

購入後まで続く
店とお客さまの密接な関係

無

事に免許を取得し、お客さまはスクーターを購入する。免許生活の第三步目を踏み出そうとしたその先にも酒井社長のフォローの手が

差しのべられている。

「エンジン付きの乗り物を初めて乗るお客さま、とくに主婦の皆さんは最初からうまく乗れるはずがない。買ったあとも指導は続くんです。今度は実技面ですね」

主婦のお客さまがスクーターを購入するとさっそく酒井社長はお客さまのお宅にうかがう。乗り方講習を個人指導するのだ。およそ30分にわたる指導のなかには、女性客が苦手とするエンジンの始動のしかたをはじめ、アクセルワークや曲がり角など「危険防止」に重点を置いたものである。

しかし、免許教室が始まって、試験場への送迎、購入後の個人指導……これだけの気づかいやフォローに対してお客さまからいただく料金は免許教室受講にかかる2060円だけ。

酒井さんの免許教室に参加するお客さまは毎回5人ほ



『YOU SHOP 酒井』さんだ

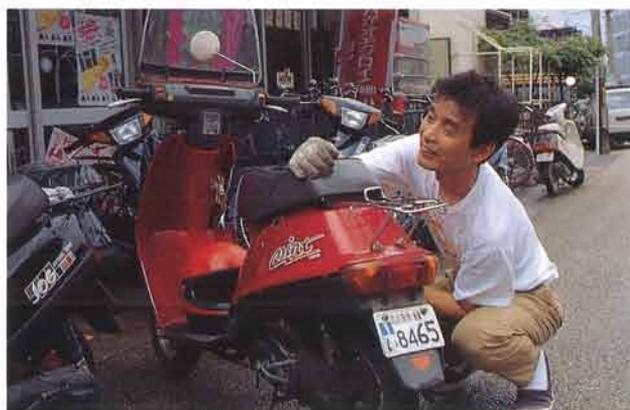
頼れる町のバイクショップ

バイクライフを支えるのが

0(ゼロ)から始まる

さらに購入後のアフターケア

免許取得から購入時の指導、



主婦層を中心とした接客が多いだけに、オイルの染みだ服は絶対に着れないと酒井社長。汚さないサービス作業を行うために、酒井社長の店での「正装」はTシャツと普段着のズボンが中心となる

と。そのうち、スクーターの購入につながるの約40パーセントだという。この数は果たして大きいのか、小さいのか……?

「断然、大きいよ。販売台数が読みにくいスクーターの商売で、免許教室の受講生には確実に4割は売れるということでしょう。売り上げが予測できるメリットは大きいよ。」

それにね、もう一つのメリットは店の知名度がアップすること。免許教室を定期で行なっているところはまずほとんどないから、教室をやっていることだけでもアピールにつながる。これもひとつの個性だよ。そして第三メリットは店の信頼度が高まるんだ。免許取得の段階からお客さまとつきあいができるわけだもん。ただ売るだけの店とは違うということを感じてもらえるよさですよ。つまり、売り上げ確保はもちろん、免許教室で縁ができたお客さまからはさらに家族用の自転車も売れる。また、教室の話や購入後の指導の話がクチコミで広がってさらにお客さまが増えるというのだ。

そう言いながらも時々、なんでこんな苦労しなければならないのかと思うこともある」と酒井社長。でもね、と言葉を継ぎながらYOUS HOP 酒井の商売の姿勢を語ってくれた。「お客さんのバイクライフをバックアップしてあげることが店頭活動の中心だと思っ。織田信長のように派手な商売をしているところも多いけど、徳川家康のように地道に進める商いも大切なんじゃないかな」

免許を取得し、スクーターを購入する。一見何の造作もないと思えることだが、お客さまにとっては超えなければならぬハードルがいくつもあることを忘れてはならない。ハードルの一つひとつを飛び越えるとき、お店がちょっと手助けしてあげる。こんな地道な作業から商売は始まるのだ。

Hello

ナイスショップ

YOU SHOP 酒井

名古屋市緑区鳴海町境松1 ☎052-621-1479

名古屋市緑区の東端、名鉄名古屋本線・有松駅近くに立地。旧東海道・鳴海宿として栄えた町は着物の有松鳴海しほりで有名。現在は旧宿場町を中心に新興住宅地としての開発が急ピッチで進められている。近郊には名古屋短期大学をはじめ、藤田学園保健衛生大学などの学校もある。酒井社長は酒井サイクルの三代目、YOU SHOP化は8年前。

- オープン：大正3年●店舗規模：40坪ほどの店舗のうち、スクーターショールームはおよそ20坪●商圏：名古屋市緑区および豊明市を中心に半径5キロ●展示台数：ショールーム内にスクーター10台。オープンスペースに6台を展示●客層：主婦層を中心に、女性客が半数以上を占める●クラブ：なし
- 営業時間：午前9時から午後8時●定休日：毎週火曜日

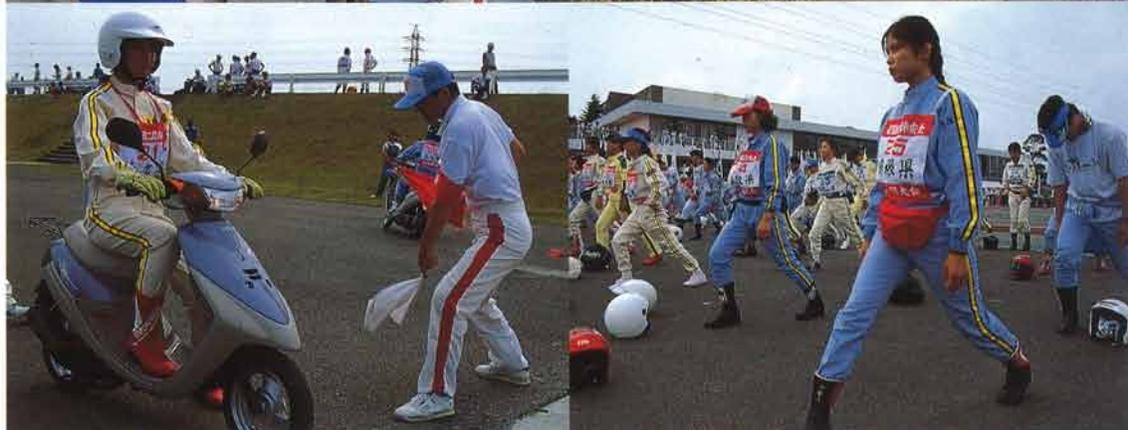


スクーター展示スペースと自転車展示スペースを分ける店の中央には、スーパージョーズを展示。ひときわ目をひくディスプレイに、問い合わせの声も多いようだ。主婦でも気軽に立ち寄れるような、暖かいイメージづくりが店の基本。大がかりなディスプレイはできないけど、暖かさは忘れない」と酒井社長は言う。



ここにもヤマハ

We Love Yamaha



セーフティライダー 日本一を強力サポート ヤマハスクーターJOG

スタート！ 審判員の白旗が打ち降ろされる。「後方よし！」気合いを入れてセクションに挑む。悪路、一本橋、スラローム、傾斜地…。巧みにヤマハスクーターJOGを操る緊張した顔が各セクションを消化する。「ハイ、減点ゼロ」審判員がスコアカードにパンチを入れる。思わずガッツポーズ。沸く応援団。

第26回「二輪車安全運転全国大会」。今年もセーフティライダー日本一を目指し、47都道府県から188名の代表が鈴鹿サーキット・交通教育センターに集った(7月31日～8月1日)。各地区代表4人の精鋭たちは女性クラス(125ccまで)、高校生クラス(125ccまで)、一般Aクラス(400ccまで)、一般Bクラス(400ccを超えるもの)とに分かれ、技能走行、法規履行走行と競技を重ねた。

そして女性と高校生2クラスの競技車両として重責を担ったのがJOGであった。当然、JOGも気合いが入り「よし、ここはオレの面目躍如、願ってもない舞台だ！」と言ったかどうか、やたらとたくましく見えた。

熱戦の2日間、JOGとともに日本一に輝いたのは大分代表、山崎美和子さん(女性クラス)と大阪代表の泉聡一さん(高校生クラス)。おめでとう！

大会終了は次回へのスタートだ、とは参加者の声。店頭活動のひとつとしてエントリーしてみたいかがだろうか。

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社